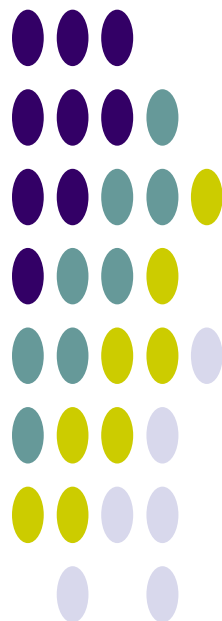


2 0 2 6 年 度
シ ラ バ ス

社会福祉学科



HOKUTO GAKUEN
学校法人 北杜学園
仙台医療福祉専門学校

1年生開講科目

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
社会福祉概論	60	4		1
老人福祉論	60	4	○	3
障害者福祉論	60	4	○	5
児童福祉論	30	2	○	7
社会福祉援助技術論	60	4	○	8
社会福祉援助技術演習	90	6		10
福祉事務所運営論	30	2	○	13
保健体育・レクリエーション	60	2		14
介護概論	60	4	○	16
医学一般	60	4		18
法学	30	2		20

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
経済学	30	2		21
心理学	30	2		22
社会学	30	2		23
社会福祉現場実習指導	30	1		24
ボランティア論	30	2		25
〇A演習	20	1		26
レクリエーション概論	30	2		27
介護技術	60	2	○	28
病院管理実務	30	2	○	30
福祉用具専門相談員特別講義	40	-	○	31

2年生開講科目

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
社会福祉行政論	30	2	○	33
社会保障論	60	4		34
公的扶助論	30	2		36
家庭福祉論	30	2	○	37
地域福祉論	60	4	○	38
社会福祉援助技術演習	60	4		40
社会福祉施設経営論	60	4	○	42
社会福祉現場実習指導	60	2		44
手話	30	2	○	46

授業科目	授業 時数	単位 数	実務経験 授業科目	頁
刑事司法と福祉	30	2	○	47
社会調査法	30	2		48
教養講座	30	2		49
卒業研究	30	1		50
レクリエーション実技	30	1		51
ソーシャルワークの理論と方法	60	4	○	52
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	60	4	○	54
介護技術	30	1	○	56
社会福祉現場実習	240	8		57

実務経験のある教員が実施する授業科目の合計授業時数	820時間
実務経験のある教員が実施する授業科目の合計単位数	49単位

科目名		社会福祉概論		担当教員	野口 美雪		評価の方法	試験	80%	
実務経験 授業科目								出席・授業態度	20%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数	4単位				
必修・選択	必修				授業時間数	60時間				
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	60回				
テキスト・参考文献	『新 社会福祉とは何か（第5版）』（中央法規） 『見て覚える社会福祉士国試ナビ』（中央法規） 『介護職員初任者研修テキスト』（中央法規） 『社会福祉の動向』（中央法規）									
授業概要	現代における社会福祉の意義・理念について学び、福祉の法体系制度、及び財政全体の要旨を理解する。 更に社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、そしてその活動による福祉社会の確立と必要性について理解する。									
到達目標	「福祉」は、私たちの生活と切り離せないものである。福祉を身近なものと感じられるよう、自分の問題として捉えるように理解することを目標にする。									
授業コマ数	テーマ	内容								
1 2	オリエンテーション	本授業の概要、進め方、福祉に対するイメージについて学ぶ								
3 4	私たちの生活と福祉①	福祉に必要な社会、経済状況の把握、人間の理解について学ぶ								
5 6	私たちの生活と福祉②	事例を通して生活と福祉の理解、福祉の範囲について学ぶ								
7 8	社会福祉の概念①	幸せと福祉の関係について学ぶ								
9 10	社会福祉の概念②	福祉の定義、憲法25条について理解する								
11 12	社会福祉の概念③	社会福祉と社会保障の関係について理解する								
13 14	社会福祉の概念④	自立の意味、福祉の最終目標について理解する								
15 16	社会福祉の歴史①	日本の戦前（明治～昭和初期）の歴史について学ぶ								
17 18	社会福祉の歴史②	日本の戦後（昭和20～60年代）の歴史について学ぶ								
19 20	社会福祉の歴史③	平成の福祉改革について学ぶ								
21 22	社会福祉の歴史④	近年の動向、法改正について学ぶ								
23 24	社会福祉を取り巻く環境①	人口構成からみた少子高齢社会について理解する								
25 26	社会福祉を取り巻く環境②	介護ニーズの増大と地域福祉に関する問題について理解する								
27 28	社会福祉を取り巻く環境③	家族の動向と変化について学ぶ								
29 30	まとめ	前期の授業のまとめ								

科目名	社会福祉概論	担当教員	野口 美雪		評価の方法	試験	80%	
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数		4単位	出席・授業態度	20%
必修・選択	必修		授業形態	講義		授業時間数		
配当年次	1年	授業回数				60回		
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	社会福祉の法制①	社会福祉事業法から社会福祉法へ変更について理解する						
33 34	社会福祉の法制②	社会福祉法の内容（社会福祉事業の定義、福祉事務所、社会福祉法人、社会福祉協議会について理解する						
35 36	社会福祉の法制③	社会福祉六法の理解を深め、法体系を理解する						
37 38	社会福祉の法制④	その他の社会福祉関連法律（介護保険法・国民年金法等）について学ぶ						
39 40	社会福祉の法制⑤	その他の社会福祉関連法律（障害者総合支援法、精神障害者保健福祉法等）について学ぶ						
41 42	社会福祉の行政①	国の機関、地方公共団体のきかんについて学ぶ						
43 44	社会福祉の行政②	福祉事務所の業務、役割について学ぶ						
45 46	社会福祉の行政③	児童相談所の業務、役割について学ぶ						
47 48	社会福祉の行政④	その他の専門行政機関の業務、役割について学ぶ						
49 50	社会保障制度の体系①	所得保障制度、年金制度の概要について学ぶ						
51 52	社会保障制度の体系②	所得保障制度、その他の制度（労働者関係）の概要について学ぶ						
53 54	社会保障制度の体系③	医療保障制度、医療保険制度の概要について学ぶ						
55 56	社会保障制度の体系④	社会保険と公的扶助との違いについて学ぶ						
57 58	社会福祉のマンパワー	社会福祉の専門性と倫理、社会福祉専門職の諸資格について学ぶ						
59 60	今後の社会福祉について	21世紀型社会福祉の構築、考え方を理解する						

科目名		老人福祉論	担当教員	宇田川 佳浩		評価の方法	試験	70%	
実務経験 授業科目	○	社会福祉施設等において管理職以上の経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、老人福祉の体系及び制度の概要、役割・機能について講義する。						出席・授業態度	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		4単位		
必修・選択	必修				授業時間数		60時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	『高齢者福祉』（中央法規）『介護職員初任者研修テキスト』（中央法規） 『見て覚える社会福祉士国試ナビ』（中央法規）								
授業概要	社会と老人問題、老人福祉制度の変遷を紐解いていく。特に介護保険制の背景と目的・仕組み、現状と課題については時間を注ぎ、実践的立場での理解を目指す。								
到達目標	高齢者の定義と特性、高齢者とその家族の生活とそれを取り巻く社会環境、高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の展開過程、法制度と支援の仕組みを理解する。高齢者の生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援の在り方を理解する。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	高齢者の定義と特性		高齢者の定義と社会的特性を理解する 高齢者の身体的特徴および精神的特性について理解する 高齢者を全人的な存在として総合的に理解する						
2									
3	少子高齢社会の到来		高齢化とは何か、高齢化はなぜ進むのかについて理解する 日本の高齢化の現状について理解する 日本の高齢化の特徴を踏まえてどのような課題があるのか考える						
4									
5	高齢者の生活実態		高齢者の生活実態の諸側面を理解し、その多様性を考える						
6	高齢者を取り巻く社会環境		高齢者介護における家族の役割と抱える問題を理解する 多様化する家族介護と家族介護者支援の必要性について理解する						
7	高齢者観の変遷		社会における高齢者像やイメージの変遷を理解する 老年学における高齢者像の変化を理解する 高齢者観について諸概念を理解する						
8									
9	高齢者福祉の発展過程		明治期から現在までの高齢者福祉の発展過程の流れを理解する 高齢者福祉の発展に影響を与える社会情勢の変化について理解する これまでの発展過程の理解/今後の改革の方向性について考える						
10									
11	高齢者福祉の理念		法律にみられる高齢者福祉の理念を理解する 高齢者福祉の理念についての諸概念を理解し、その実現について考える						
12									
13	介護保険制度の概要		介護保険制度の枠組み・制度の仕組みについて学ぶ 介護保険制度における保険者、被保険者、保険給付と利用できるサービス、利用手続き、費用負担などを理解する						
14									
15	地域支援事業		地域支援事業の目的と事業内容を通じた介護予防の取組を理解する 地域包括支援センターの設置目的、設置体制、業務内容、三職種の役割を理解する						
16									
17	介護保険サービスの体系		介護保険サービスでよく利用されるサービスの特徴を理解する 介護保険3施設の特徴を理解する						
18									
19	高齢者保健福祉の法体系		高齢者を取り巻くサービス体系を学ぶ						
20	老人福祉法		老人福祉法の目的や理念、介護保険法との関係性について理解する 地域包括ケアの実現に向けた老人福祉法の改正について理解する						
21	高齢者医療確保法		高齢者医療確保法の概要及び制度内容について理解する						
22	高齢者虐待防止法		高齢者虐待防止法の概要と、虐待の未然防止について理解する						
23	バリアフリー法		バリアフリー法の概要・施設設置管理者等の責務について理解する						
24	高齢者住まい法		高齢者住まい法制定までの流れとサービス付高齢者住宅の位置づけを理解する						
25	高齢者雇用安定法		高齢者雇用安定法の概要と沿革、高年齢期の就労と経済状況、年金保険との関係性について理解する						
26	育児・介護休業法		育児・介護休業法の概要について理解する						
27	市町村独自の高齢者支援		市町村における地域の特性に応じた介護保険制度を補完する独自の支援について学ぶ						
28	これまでの振り返り		高齢者支援の多様性を俯瞰的視点で理解する						
29	前期の振り返り		前期学習した内容の振り返りを行う						
30									

科目名	老人福祉論	担当教員	宇田川 佳浩		評価の方法	試験	70%	
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数		4単位	出席・授業態度	30%
必修・選択	必修		授業形態	講義		授業時間数		
配当年次	1年	授業回数				60回		
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	関係機関の役割	介護保険制度における国・都道府県・市町村、指定サービス事業者、国民健康保険団体連合会、介護の担い手とハローワーク、シルバー人材センターの機能と役割を理解する						
33 34	関連する専門職種の役割	高齢者を支援する福祉・医療・保健の専門職の役割を学ぶ 家族や住民など高齢者を支援する身近な人たちの現状を知る						
35 36	関連する専門職種の役割	日常生活自立支援事業について理解する						
37 38	高齢者領域における ソーシャルワーカーの役割	高齢者へのアセスメントやコミュニケーションの要点を理解する						
39 40	高齢者領域における ソーシャルワーカーの役割	個人、家族、グループ、地域へ的高齢者ソーシャルワークを理解する						
41 42	高齢者領域における ソーシャルワーカーの役割	多様な高齢者ケアとソーシャルワークの特性を理解する						
43 44	高齢者と家族に対する支援の実際①	社会福祉士による支援の実際を学ぶ 事例を通して、各専門職との連携・協働について学ぶ 家族の介護負担軽減と就労支援事例						
45 46	高齢者と家族に対する支援の実際②	介護老人保健施設における見取り支援事例						
47 48	高齢者と家族に対する支援の実際③	高齢者虐待とは何か 虐待を捉える上でのポイントについて理解する						
49 50	高齢者と家族に対する支援の実際④	「8050問題」状況下で高齢者虐待が疑われる事例						
51 52	高齢者と家族に対する支援の実際⑤	近隣とのトラブルがある独居高齢者の在宅生活を支えた事例						
53 54	高齢者と家族に対する支援の実際⑥	認知症・認知症介護のポイントを理解する						
55 56	高齢者と家族に対する支援の実際⑦	ユマニチュード技術について理解する						
57 58	高齢者と家族に対する支援の実際⑧	地域包括ケアシステムにおける居宅・認知症高齢者の事例						
59 60	後期の振り返り	後期学習した内容の振り返りを行う						

科目名		障害者福祉論	担当教員	笠松 剛士		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	障害福祉施設等において現場および管理者の経験があつて、当該科目に関する業務に従事していた教員が、「障害」の捉え方及び障害福祉の体系及び制度の概要、役割・機能について講義する。					受講態度	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		4単位		
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		60時間		
配当年次	1年				授業回数	60回			
テキスト・参考文献	『最新 社会福祉士養成講座 8 障害者福祉』（中央法規） 社会福祉小六法 『見て覚える社会福祉士国試ナビ』（中央法規）								
授業概要	講義、調べ学習、視聴覚教材、グループでの話し合い等を通して、障害者福祉の理念、障害観の変遷、法制度と支援のしくみ等を理解し、障害者とその家族の生活と社会環境等について現状と課題を知り、支援のあり方を考える。								
到達目標	障害の概念と特性、障害者とその家族の生活、社会環境、障害者福祉の歴史と障害観の変遷、法制度と支援の仕組みを理解する。障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	障害概念	障害者の定義について理解する							
2									
3	障害の特性①	身体障害の特性と支援内容について概略を理解する							
4									
5	障害の特性②	知的障害の特性と支援内容について概略を理解する							
6									
7	障害の特性③	精神障害の特性と支援内容について概略を理解する							
8									
9	障害の特性④	難病の特性と支援内容について概略を理解する							
10									
11	障害の特性⑤	発達障害の特性と支援内容について概略を理解する							
12									
13	国際生活機能分類と障害の社会モデル	ICIDHとICF、医学モデルと社会モデルの意義と課題を理解する							
14									
15	障害者福祉の理念	障害観の変遷について学ぶ							
16		ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョンについて学ぶ							
17	障害者福祉の歴史①	障害者処遇の変遷を学ぶ							
18		障害者福祉制度と発展過程を知る							
19	障害者福祉の歴史②	障害者福祉制度と発展過程を知る							
20		当事者運動の意義、展開過程について学ぶ							
21	障害者権利条約と障害者基本法	障害者権利条約の批准と障害者基本法の改正のポイントを理解する							
22									
23	障害者の生活実態	障害者の生活問題と支援ニーズについて学ぶ							
24									
25	障害者と家族	障害児・者の家族の現状と支援のあり方について学ぶ							
26									
27	障害者を取り巻く社会環境と課題①	障害児・者の日常生活を取り巻く社会環境の現状と課題、バリアフリーについて考える							
28									
29	障害者を取り巻く社会環境と課題②	コンフリクト、障害者虐待、貧困、テクノロジーについて考える							
30									

科目名	障害者福祉論	担当教員	笠松 剛士		評価の方法	試験（筆記）	70%	
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数		4単位	受講態度	30%
必修・選択	必修		授業形態	講義		授業時間数	60時間	
配当年次	1年	授業回数		60回				
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	障害者に対する法制度①	障害者に関連する法制度の全体像を把握する						
33 34	障害者に対する法制度②	身体障害者福祉法、身体障害者補助犬法、手話言語条例を知る 知的障害者福祉法について、児童福祉法とのつながりや他の障害との相違点を知る						
35 36	障害者に対する法制度③	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）について、変遷と現行法の概要を知る						
37 38	障害者に対する法制度④	児童福祉法における障害児支援の変遷と概要、発達支援について学ぶ 発達障害者支援法の概要を知る						
39 40	障害者に対する法制度⑤	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）の全体的体系、障害支援区分を知る						
41 42	障害者に対する法制度⑥	障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）の障害福祉サービス、相談支援、障害福祉計画等を知る						
43 44	障害者に対する法制度⑦	障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律、 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の概要を知り、虐待の防止や差別の解消に向けた課題について考える						
45 46	障害者に対する法制度⑧	バリアフリー法、障害者雇用促進法、障害者優先調達推進法の概要を理解する						
47 48	障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割	行政機関、労働機関、教育機関、医療機関の役割について学ぶ						
49 50	関連する専門職の役割と家族、地域	医療職、福祉職等関連する専門職の役割を知る 地域住民、ボランティア等地域福祉の担い手を知る						
51 52	障害者と家族等に対する支援の実際①	医療的ケアが必要な人にはどのような支援が必要か考える 医療的ケア児の現状と施策、ソーシャルワーカーの役割を知る						
53 54	障害者と家族等に対する支援の実際②	強度行動障害のある人への支援について学ぶ 精神科長期入院患者の地域移行支援について学ぶ						
55 56	障害者と家族等に対する支援の実際③	触法障害者の現状と支援施策を知り、福祉的支援の役割を考える						
57 58	障害者と家族等に対する支援の実際④	「8050問題」の課題と専門職の支援を考える ソーシャルワーカーの役割と多職種連携について学ぶ						
59 60	まとめ	学習内容をふりかえり、今後の課題を考える						

科目名		児童福祉論	担当教員	服部 典子		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	児童福祉施設において5年の実務経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、児童福祉及び児童問題に関する法やサービスについて講義する。						提出物等	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	後期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『最新 社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』（中央法規） 『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）								
授業概要	講義、調べ学習、視聴覚教材、グループでの話し合い等を通して、児童の権利、児童観の変遷、現代社会の児童・家庭を取りまく社会環境、法制度と支援のしくみ等、社会福祉士に必要な児童・家庭にかかわる基礎を学ぶ。								
到達目標	児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境、児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程、法制度、支援の仕組みと方法等を理解し、社会福祉士の役割や支援のあり方を考える基礎知識を習得する。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	子ども家庭福祉とは何か①		子どもの権利について学び、自らの子ども観を見直す機会とする						
2			子どもの発達と環境的要因について考える						
3	子ども家庭福祉とは何か②		ウェルビーイングを指向した子ども家庭福祉のあり方について理解する						
4			子ども家庭ソーシャルワークの全体像を理解する						
5	子ども家庭福祉の歴史		慈善・恩恵から権利保障への歴史、「子ども家庭福祉」の変遷を学ぶ						
6									
7	子ども家庭福祉と現代社会		子ども家庭を取りまく社会環境を理解する						
8			現代社会における課題と子育て・子育てへの影響について学ぶ						
9	子ども家庭福祉の支援の基盤①		子ども家庭福祉の法体系の概要を知る						
10									
11	子ども家庭福祉の支援の基盤②		子ども家庭福祉の実施体制、関係機関・施設、専門職を知る						
12									
13	子ども家庭福祉の支援の基盤③		子ども家庭福祉の計画的推進、財源と費用負担について学ぶ						
14									
15	子どもの福祉課題と支援①		子ども・子育て支援施策の概要を知る						
16									
17	子どもの福祉課題と支援②		母子保健の目的や対象、福祉・医療との連携、協働などについて学ぶ						
18			保育に関する制度の流れ、最近の動向を知る						
19	子どもの福祉課題と支援③		要保護児童等と在宅支援における多機関連携、ソーシャルワーカーの役割を知る						
20									
21	子どもの福祉課題と支援④		児童虐待の現状と対応のあり方を学ぶ						
22			社会的養護の動向を把握し、その仕組みと権利擁護について学ぶ						
23	子どもの福祉課題と支援⑤		ひとり親家庭の生活状況、支援策と方向性、課題を知る						
24			ドメスティックバイオレンスと女性支援について知る						
25	子どもの福祉課題と支援⑥		少年非行にかかわる基本的な視点を確認し、基礎知識を身につける						
26			学校を取り巻く課題、スクールソーシャルワーカーの役割を知る						
27	子どもの福祉課題と支援⑦		若者世代に現れる困難の状況、若者支援制度の最近の動向について知る						
28									
29	子どもの福祉課題と支援⑧		ソーシャルアクションにおけるソーシャルワーカーの役割を考える						
30	まとめ		学習内容とともに自らの関心と理解についてふりかえる						

科目名		社会福祉援助技術論		担当教員	若生 悟		評価の方法	試験	70%	
実務経験 授業科目	○	社会福祉施設等において5年以上の経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、社会福祉援助の理念や価値、技術等について講義する。						出席・授業態度	30%	
対象学科	社会福祉学科			開講時期	通年	単位数		4単位		
必修・選択	必修					授業時間数		60時間		
配当年次	1年			授業形態	講義	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	『ソーシャルワークの基盤と専門職』（中央法規）『介護職員初任者研修テキスト』（中央法規）									
授業概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程、ソーシャルワークの価値規範と倫理について学習する。									
到達目標	社会福祉士及び精神保健福祉士の法的位置づけ、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程、ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	授業オリエンテーション			自己紹介、授業の準備物・評価等オリエンテーションを実施する						
2	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士と精神保健福祉士			国家資格である社会福祉士と精神保健福祉士に期待されていることを理解する						
3	社会福祉士及び介護福祉士法			社会福祉士制度創設の経緯・背景について理解する						
4				社会福祉士の法的定義と義務について理解する						
5	精神保健福祉士法			社会福祉士制度の見直しの概要について理解する						
6				精神保健福祉士制度創設の経緯・背景について理解する						
7				精神保健福祉士の法的定義と義務について理解する						
8	社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性			精神保健福祉士制度の見直しの概要について理解する						
9				専門職の実際の仕事について模擬事例をもとにし実践イメージを持つと共に、専門職として、どのような知識や技術を習得する必要があるか考察する						
10	社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー			ソーシャルワーカーのコンピテンシーについて理解する						
11				コンピテンシーを身につけるために何を学ぶ必要があるか理解する						
12	ソーシャルワークの概念			ソーシャルワーク専門職のグローバル定義を学ぶ						
13	ソーシャルワークの定義			ソーシャルワークの任務、諸原理、基盤となる知を学ぶ						
14				ソーシャルワークの実践を学ぶ						
15	ソーシャルワークの概念			クライアント、クライアントシステムについて学ぶ						
16	ソーシャルワークの構成要素			ソーシャルワーカーについて学ぶ						
17				社会資源について学ぶ						
18	ソーシャルワークの基盤となる考え方			ソーシャルワークとは何か、諸原理の意味を吟味して学び、自分の言葉で説明できるように理解する						
19	ソーシャルワークの原理			社会のありようからソーシャルワークの必要性を理解する						
20				自身の価値観と比較しながら、ソーシャルワーカーの理念の意味を理解する						
21	ソーシャルワークの基盤となる考え方			ソーシャルワーカーの理念に基づく行動の在り方を考える						
22	ソーシャルワークの理念									
23	ソーシャルワークの形成過程			弱い立場にあった人たちの支援の歴史を理解する						
24	ソーシャルワークの源流と基礎確立期			産業革命とソーシャルワークの関係を理解する						
25				ソーシャルワークの萌芽について理解する						
26	ソーシャルワークの形成過程			診断主義と機能主義について理解する						
27	ソーシャルワークの形成過程			グループワークの発展について理解する						
28	ソーシャルワークの発展期			コミュニティオーガニゼーションの発展について理解する						
29	ソーシャルワークの形成過程			ソーシャルワークのすそ野の広がりについて理解する						
30	ソーシャルワークの展開期と統合化			ソーシャルワークにおける生活モデルを理解する						
31				ジェネラリスト・ソーシャルワークの移行について理解する						
32	ソーシャルワークの形成過程			救済から社会事業の流れ、社会事業の展開について理解する						
33	日本におけるソーシャルワークの形成過程①									
34	ソーシャルワークの形成過程			戦後のソーシャルワークの導入とその後の展開について理解する						
35	日本におけるソーシャルワークの形成過程②									
36	前期の振り返り			前期学習した内容の振り返り						

科目名	社会福祉援助技術論	担当教員	若生 悟			評価の方法	提出物	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		出席・授業態度	30%
必修・選択	必修	授業形態	講義	授業時間数	60時間			
配当年次	1年			授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	ソーシャルワークの倫理 専門職倫理の概念	ソーシャルワーカーの専門職倫理とは何かを理解する 専門職倫理の必要性について理解する						
33 34	ソーシャルワークの倫理 倫理綱領	倫理綱領の意義、倫理綱領の内容について理解し、倫理綱領が活用 できるようになる。						
35 36	ソーシャルワークの倫理 倫理的ジレンマ	ソーシャルワーカーが経験する倫理的ジレンマについて理解する 倫理的判断過程について学ぶ						
37 38	ソーシャルワーク専門職の概念と範囲	ソーシャルワーカーが専門職であるための条件について学ぶ 社会生活支援・地域支援の専門性と必要性について学ぶ ソーシャルワーク専門職と職能団体の役割について学ぶ						
39 40	社会福祉士の領域と役割	社会福祉士が働く職域の拡大について学ぶ 社会福祉士が活躍するさまざまな力域について学ぶ それらの職域の中で働く社会福祉士の役割について学ぶ						
41 42	多様な組織・機関・団体における専門職	ソーシャルワークの実践を担う様々な職種や現場について学ぶ 社会福祉行政の各機関で働く専門職について学ぶ 民間の社会福祉施設や機関で働く専門職について学ぶ						
43 44	諸外国の動向	主要先進諸国のソーシャルワーカーの養成制度や実践分野について 学ぶ						
45 46	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける ソーシャルワーク	ソーシャルワークにおけるマイクロ・メゾ・マクロの意味、対象、相 互の関係性を理解する						
47 48	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおける ソーシャルワークの展開	マイクロ・メゾ・マクロレベルの関連性と実践の展開を理解する 個人と環境及び両者の相互関係に働きかける支援の実際を理解する						
49 50	総合的かつ包括的な支援における ジェネラリストの視点	総合的かつ包括的な支援としてのソーシャルワークを理解する ソーシャルワークにおけるジェネラリストの視点と、その展開を理 解する						
51 52	総合的かつ包括的な支援の意義と内容	多機関・多職種による包括的支援体制の構築について理解する 社会資源となる人や組織等との連携・協働について理解する ソーシャルサポートネットワークについて理解する						
53 54	多職種連携とチームアプローチ	多職種連携の意義と内容を理解する チームアプローチの意義と内容を理解する						
55 56	機関・団体間の合意形成の促進と クライアントとの連携・協働	ジェネラリスト視点から多職種連携・チームアプローチを理解する						
57 58	学習の振り返り①	後期学習した内容の振り返りを行う。						
59 60	学習の振り返り②	後期の振り返りを行う。						

科目名		社会福祉援助技術演習			担当教員		服部典子 武山和弘 野口美雪		評価の方法	試験（レポート）	70%		
実務経験 授業科目											授業態度・出席等	30%	
対象学科		社会福祉学科			開講時期	通年	単位数	6単位					
必修・選択		必修					授業時間数	90時間					
配当年次		1年			授業形態	演習	授業回数	90回					
テキスト・参考文献		『学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習』（ミネルヴァ書房） 『介護職員初任者研修テキスト』『見て覚える社会福祉士国試ナビ』（中央法規）											
授業概要		基本的なコミュニケーション技術・基本的な面接技術を通して、生活保護演習の課題と事例、障害者福祉演習の課題と事例、児童福祉演習の課題と事例、老人福祉演習の課題と事例、家庭福祉演習の課題と事例に取り組み、ソーシャルワークの展開を学ぶ。											
到達目標		1 習得した社会福祉援助技術の理論技術を演習し、応用能力を向上させる。 2 演習を通じて、具体的に人権の尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。											
授業コマ数		テーマ			内容								
1	2	オリエンテーション			ソーシャルワーク演習とは								
3	4	ソーシャルワークの価値と視点①			ソーシャルワーカーに求められる倫理、多様性の理解、人権と人間の尊厳・集団的責任、社会正義								
5	6	ソーシャルワークの価値と視点②			自己覚知（自己理解と他者理解）、感情理解と活用、個人の理解、家族の理解、グループの理解								
7	8	基本的なコミュニケーション技術の習得			基本的コミュニケーション（言語メッセージと非言語メッセージ、非言語コミュニケーションの役割）								
9	10	基本的なコミュニケーション技術の習得			具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を実施								
11	12	基本的な面接技術の習得①			面接の構造化、場の設定、ツールの活用								
13	14	基本的な面接技術の習得②			具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を実施								
15	16	生活保護演習の課題①			生活保護とは 実施責任								
17	18	生活保護演習の課題②			世帯認定 収入認定								
19	20	生活保護演習の課題③			最低生活費算出								
21	22	生活保護演習の事例 困難事例 ①			ケースの発見、インテーク アセスメント								
23	24	生活保護演習の事例 困難事例 ②			プランニング 支援の実施								
25	26	生活保護演習の事例 困難事例 ③			モニタリング 支援の終結と事後評価、アフターケア								
27	28	生活保護演習の事例 困難事例 ④			ソーシャルワークの記録（支援経過の把握と管理） グループダイナミクスの活用（構成・展開過程）								
29	30	生活保護演習の事例 困難事例 ⑤			プレゼンテーション（個人・グループ）								

科目名	社会福祉援助技術演習	担当教員	服部典子 武山和弘 野口美雪			評価の方法	試験（レポート）	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	6単位		授業態度・出席等	30%
必修・選択	必修	授業形態	演習	授業時間数	90時間			
配当年次	1年			授業回数	90回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	生活保護演習の事例 困難事例（ひきこもり）①	ケースの発見、インテーク アセスメント						
33 34	生活保護演習の事例 困難事例（ひきこもり）②	プランニング 支援の実施						
35 36	生活保護演習の事例 困難事例（ひきこもり）③	モニタリング 支援の終結と事後評価、アフターケア						
37 38	生活保護演習の事例 困難事例（ひきこもり）④	アウトリーチ、チームアプローチ ネットワーキング、コーディネーション						
39 40	生活保護演習の事例 困難事例（ひきこもり）⑤	ネゴシエーション、ファシリテーション プレゼンテーション、ソーシャルアクション						
41 42	障害者福祉演習の課題 ①	障害者問題の把握						
43 44	障害者福祉演習の課題 ②	社会資源活用事例						
45 46	障害者福祉演習の障害者虐待事例 ①	ケースの発見、インテーク アセスメント						
47 48	障害者福祉演習の障害者虐待事例 ②	プランニング 支援の実施						
49 50	障害者福祉演習の障害者虐待事例 ③	モニタリング 支援の終結と事後評価、アフターケア						
51 52	障害者福祉演習の障害者虐待事例 ④	アウトリーチ、チームアプローチ ネットワーキング、コーディネーション						
53 54	障害者福祉演習の障害者虐待事例 ⑤	ネゴシエーション、ファシリテーション プレゼンテーション、ソーシャルアクション						
55 56	児童福祉演習の課題	要保護児童の発見と問題の把握						
57 58	児童福祉演習の障害者虐待事例 ①	ケースの発見、インテーク アセスメント						
59 60	児童福祉演習の障害者虐待事例 ②	プランニング 支援の実施						

科目名	社会福祉援助技術演習	担当教員	服部典子 武山和弘 野口美雪			評価の方法	試験（レポート）	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	6単位		授業態度・出席等	30%
必修・選択	必修			授業時間数	90時間			
配当年次	1年	授業形態	演習	授業回数	90回			
授業コマ数	テーマ	内容						
61 62	児童福祉演習の障害者虐待事例 ③	モニタリング 支援の終結と事後評価、アフターケア						
63 64	児童福祉演習の障害者虐待事例 ④	アウトリーチ、チームアプローチ ネットワーキング、コーディネート						
65 66	児童福祉演習の障害者虐待事例 ⑤	ネゴシエーション、ファシリテーション プレゼンテーション、ソーシャルアクション						
67 68	老人福祉演習の課題	要援護老人の発見と問題の把握						
69 70	老人福祉演習の障害者虐待事例 ①	ケースの発見、インテーク アセスメント						
71 72	老人福祉演習の障害者虐待事例 ②	プランニング 支援の実施						
73 74	老人福祉演習の障害者虐待事例 ③	モニタリング 支援の終結と事後評価、アフターケア						
75 76	老人福祉演習の障害者虐待事例 ④	アウトリーチ、チームアプローチ ネットワーキング、コーディネート						
77 78	老人福祉演習の障害者虐待事例 ⑤	ネゴシエーション、ファシリテーション プレゼンテーション、ソーシャルアクション						
79 80	家庭福祉演習の課題	要援護家庭及び婦人の発見と問題の把握						
81 82	家庭福祉演習の家庭内暴力事例 ①	ケースの発見、インテーク アセスメント						
83 84	家庭福祉演習の家庭内暴力事例 ②	プランニング 支援の実施						
85 86	家庭福祉演習の家庭内暴力事例 ③	モニタリング 支援の終結と事後評価、アフターケア						
87 88	家庭福祉演習の家庭内暴力事例 ④	アウトリーチ、チームアプローチ ネットワーキング、コーディネート						
89 90	家庭福祉演習の家庭内暴力事例 ⑤	ネゴシエーション、ファシリテーション プレゼンテーション、ソーシャルアクション						

科目名		福祉事務所運営論	担当教員	林 慎吾		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	福祉事務所において生活保護業務等の行政福祉に関する業務に従事した経験を有する教員が、行政における福祉制度の体系、実施体制、役割・機能及び実務の実際について講義する。					受講態度	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	後期	単位数		2単位		
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		30時間		
配当年次	1年				授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『福祉事務所運営論』（ミネルヴァ書房）								
授業概要	福祉事務所の役割と専門職の倫理について								
到達目標	利用申請主義と社会福祉従事者としての倫理がどの様になっているかを理解する								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	福祉事務所を取り巻く環境の変化	社会福祉の対象者とニーズの変化							
2									
3	社会福祉の目的と福祉事務所の運営	社会福祉の目的と使命、福祉事務所と自立支援と社会的統合							
4									
5	社会福祉行政	責任と権限							
6									
7	社会福祉主事	公的扶助について							
8									
9	社会福祉事業法	福祉事務所成立の経緯							
10									
11	福祉事務所の組織	社会福祉法第14条から第17条							
12									
13	福祉事務所の業務	専門職と業務							
14									
15	福祉行政機関	身体障害者更生相談所 知的障害者更生相談所 児童相談所等							
16									
17	民生委員	制度とその役割							
18									
19	福祉事務所の専門職	社会福祉主事他							
20									
21	社会福祉主事	社会福祉主事としての倫理							
22									
23	社会福祉主事の業務	機能と役割							
24									
25	社会福祉援助技術	歴史 体系 内容							
26									
27	ケアマネジメント	意義 構造 援助課程							
28									
29	自立支援	福祉事務所における自立支援の事例							
30									

科目名		保健体育・レクリエーション		担当教員	菅原 一昭		評価の方法	授業内課題	70%	
実務経験 授業科目								平常点	30%	
対象学科	社会福祉学科			開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修					授業時間数		60時間		
配当年次	1年			授業形態	実技	授業回数		60回		
テキスト・参考文献	配布プリント。毎時間の準備物：ジャージ、上履き、タオル。									
授業概要	運動・身体活動を通して、運動・身体活動の必要性や集団活動での協調性、安全についての理解を深める。また、集団活動から全体の規律・態度を学ぶ。									
到達目標	運動・身体活動を通し、自身の健康管理に関心を持つ。また、様々なスポーツに触れることで、興味・関心を深め、運動を実践する習慣づけを行う。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	オリエンテーション			授業内容・移動方法・服装などの説明。場所：H・R教室						
2										
3	バレーボール			股関節・肩甲骨ストレッチ、背中合わせ、生活体力テスト（全身持久力）						
4										
5	バレーボール			体ほぐし運動、ボール投げ・円陣パス・トス、ゲーム、クールダウン						
6										
7	フリスビー、ドッジビー			ドッジビールール説明・練習・ゲーム、クールダウン						
8										
9	フリスビー、ドッジビー			練習・ゲーム、クールダウン						
10										
11	キンボール			ランニングジャンケン、ルール説明、練習、ゲーム						
12										
13	バドミントン			基礎練習、ゲーム（シングルス、ダブルス）、クールダウン						
14										
15	ミニソフトバレーボール			ダイナミックストレッチ、ボール遊び						
16										
17	ミニソフトバレーボール			円陣パス・トス、ゲーム						
18										
19	ラダーゲッター			ルール説明、練習、ゲーム						
20										
21	ボッチャ			ルール説明、練習、ゲーム（シングルス、ダブルス）、クールダウン						
22										
23	ティーボール			ダイナミックストレッチ、バランスチェック、とりかご、基礎練習、ゲーム						
24										
25	ティーボール			ルール説明、キャッチボール、ティーバッティング、打撃体験						
26										
27	ふらば〜る			ストレッチ・体操、ルール説明						
28										
29	卓球（シングルス）			練習、ゲーム、クールダウン						
30										

科目名	保健体育・レクリエーション	担当教員	菅原 一昭			評価の方法	授業内課題	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	2単位		平常点	30%
必修・選択	必修		授業形態	実技	授業時間数		60時間	
配当年次	1年	授業回数			60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31	ゴールボール (アダブテッドスポーツ)	ストレッチ・体操、ルール説明、練習、ゲーム						
32								
33	シッティングバレーボール (アダブテッドスポーツ)	練習、ゲーム、クールダウン						
34								
35	卓球 (ダブルス)	ルール説明、練習、ゲーム						
36								
37	ソフトバレーボール	ルール説明、練習、ゲーム、クールダウン						
38								
39	バスケットボール	ストレッチ、ダイナミックストレッチ						
40								
41	バスケットボール	ゴール運搬説明、パス・ドリブル・シュート練習、ゲーム、クールダウン						
42								
43	キャッチング・ザ・ステック	ストレッチ、ダイナミックストレッチ、基礎練習、本番試技						
44								
45	ユニホック	ルール説明、練習、ゲーム、クールダウン						
46								
47	フットサル	ストレッチ、ダイナミックストレッチ、ルール説明、練習、ゲーム						
48								
49	サバイバルバレーボール	ルール説明、練習、ゲーム、クールダウン						
50								
51	タスポニーバレーボール	ストレッチ、ダイナミックストレッチ、ルール説明、練習、ゲーム						
52								
53	インディアカ	ルール説明、練習、ゲーム、クールダウン						
54								
55	ハンマー投ボール作成	手作りハンマー作成						
56								
57	ハンマー投げ、総括	ストレッチ、ダイナミックストレッチ、基礎練習						
58								
59	ハンマー投げ、総括	ハンマー投効果確認						
60								

科目名		介護概論		担当教員	千坂 祐		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある教員が、介護の意義や役割、介護福祉の専門性について講義を行う。						受講態度	20%	
対象学科	社会福祉学科			開講時期	通年	単位数		4単位	出席	10%
必修・選択	必修					授業時間数		60時間		
配当年次	1年			授業形態	講義	授業回数		60回		
テキスト・参考文献	『社会福祉学習双書2026 第15巻 介護概論』（全社協）									
授業概要	介護の目的・関連職種との連携や介護過程について学ぶ。福祉従業者としての考えを構築し感性を磨く。									
到達目標	介護の目的、機能及び介護の展開方法について理解する。観察力を身につけ、変化に対応できる能力を養い、多職種と連携、協力及び必要に応じて手助けできるようにする。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	オリエンテーション			今後の授業についての理解（介護概論を学ぶ意義）						
2										
3	介護を取り巻く状況①			日常生活圏を基盤としたサービス提供についての理解						
4										
5	介護を取り巻く状況②			介護職員に求められる保健・医療の知識の理解						
6										
7	介護の目的①			介護の歴史と介護の場						
8										
9	介護の目的②			介護の原則と職業倫理						
10										
11	介護の目的③			尊厳と自立を支える介護						
12										
13	介護と保健・医療との関係①			サービス提供と多職種連携 介護と保健・医療の連携の必要性						
14										
15	介護と保健・医療との関係②			介護と医療的ケア						
16										
17	利用者の理解と援助関係の基本①			利用者の理解						
18										
19	利用者の理解と援助関係の基本②			援助関係の理解						
20										
21	コミュニケーション技術①			コミュニケーションの基本						
22										
23	コミュニケーション技術②			介護におけるチームのコミュニケーション						
24										
25	認知機能の低下した人の理解理解と支援			認知症の人を理解する						
26										
27	認知機能の低下した人の理解理解と支援			認知機能低下の原因疾患の基礎知識						
28										
29	認知機能の低下した人の理解理解と支援			認知機能低下に伴う変化と日常変化 認知機能の低下した人と家族への支援						
30										

科目名	介護概論	担当教員	千坂 祐		評価の方法	試験（筆記）	70%	
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数		4単位	受講態度	20%
必修・選択	必修		授業形態	講義		授業時間数	60時間	出席
配当年次	1年	授業回数				60回		
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	生活支援技術の基本	生活支援技術の意義						
33 34	生活支援技術の基本	食事の介護						
35 36	生活支援技術の基本	排泄の介護						
37 38	生活支援技術の基本	入浴と清潔の保持						
39 40	生活支援技術の基本	身じたくの介護						
41 42	生活支援技術の基本	睡眠の介護						
43 44	生活支援技術の基本	清潔の介護						
45 46	生活支援技術の基本	体位変換・移動の介護						
47 48	生活支援技術の基本	住環境の整備と介護						
49 50	生活支援技術の基本	住環境の整備と介護						
51 52	生活支援技術の基本	健康な生活習慣づくりへの支援						
53 54	生活支援技術の基本	終末期の介護						
55 56	介護過程①	介護過程とは						
57 58	介護過程②	介護過程の実際						
59 60	介護過程③	介護過程とチームアプローチ						

科目名		医学一般	担当教員	山崎 壮一郎		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目							受講態度	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		4単位	
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		60時間	
配当年次	1年				授業回数		60時間	
テキスト・参考文献		『社会福祉学習双書2026 医学一般』（全国社会福祉協議会） 『介護職員初任者研修テキスト』（中央法規）						
授業概要		医学と社会、現代社会と社会福祉の観点から、人体に関する医学的知識と共に公衆衛生や医療保険制度の動向、保健・医療サービスの現状を学ぶ。						
到達目標		人体の基本的な構造や機能及びその病的状態、代表的な疾患の概要、保健医療・保健医療対策に関する基礎知識、医事法制の概要、ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向、保健医療に係る政策、制度、サービス、保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協同、保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。						
授業コマ数	テーマ	内容						
1 2	人の成長・発達1	身体の成長・発達・加齢						
3 4	人の成長・発達2	精神の成長・発達						
5 6	人体の構造と機能	人体部位の名称 器官系別に見た構造と機能						
7 8	人間行動 1	人間行動のとらえ方 国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷						
9 10	人間行動 2	心身機能と身体構造、活動、参加の概念 環境因子と個人因子、健康状態と生活機能低下の概念						
11 12	健康のとらえ方	健康の概念						
13 14	一般臨床医学の概要 1	病気の起こる仕組み						
15 16	一般臨床医学の概要 2	病気の診断 治療・予防						
17 18	疾病と障害の概要 1	疾病の概要 1（悪性腫瘍、生活習慣病、感染症、神経疾患、精神疾患、運動器疾患・外傷）						
19 20	疾病と障害の概要 2	疾病の概要 2（循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患、先天性疾患、脳性まひ、皮膚疾患、女性の疾患）						
21 22	疾病と障害の概要 3	障害の概要（視覚障害、聴覚・音声言語障害、失調、平衡機能障害、肢体不自由、知的障害、内部障害、発達障害、高次脳機能障害、精神機能とその障害）						
23 24	高齢者と介護予防 1	高齢者の病気の特徴						
25 26	高齢者と介護予防 2	高齢者と介護予防						
27 28	リハビリテーションの概要1	リハビリテーションの概念						
29 30	リハビリテーションの概要2	医学的リハビリテーション リハビリテーションケアの提供						

科目名	医学一般	担当教員	山崎 壮一郎			評価の方法	試験（筆記）	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		受講態度	30%
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		60時間	
配当年次	1年	授業回数		60時間				
授業コマ数	テーマ	内容						
31	医学と社会 1	疾病と生活問題						
32								
33	医学と社会 2	医療技術の発展と生命倫理						
34								
35	公衆衛生の動向と対策 1	人口静態 人口動態						
36								
37	公衆衛生の動向と対策 2	平均余命・健康寿命						
38								
39	医療保険制度 1	医療保障						
40								
41	医療保険制度 2	医療費に関する政策動向						
42								
43	診療報酬	診療報酬制度の概要						
44								
45	保健医療サービスの概要 1	保健の動向と対策						
46								
47	保健医療サービスの概要 2	医療施設の概要						
48								
49	保健医療サービスにおける専門職の役割 1	医療従事者とその役割と概要						
50								
51	保健医療サービスにおける専門職の役割 2	インフォームド・コンセントの意義と実際						
52								
53	保健医療サービスにおける専門職の役割 3	医療ソーシャルワーカーの役割 医療専門職によるチーム医療						
54								
55	保健医療サービス関係との連携と実際 1	医師、看護師、保健師等との連携						
56								
57	保健医療サービス関係との連携と実際 2	地域の社会資源との連携						
58								
59	保健医療サービス関係との連携と実際 3	災害時の対応						
60								

科目名		法学	担当教員	阿部 恭子			評価の方法	試験	70%
実務経験 授業科目								授業態度	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	前期	単位数	2単位			
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献		『権利擁護を支える法制度』（中央法規）							
授業概要		現代社会は法治国家であり、その法治国家を支える憲法、行政法、民法等の仕組みを概観する。特に社会福祉については、法令の実際の運用から理解する。							
到達目標		社会生活における法の作用や役割、憲法、民法及び行政法等を社会福祉行政の基礎として、権利擁護活動と結び付け、基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉の援助活動に必要な内容権利擁護の意義と支える仕組み、民法、行政法等と成年後見制度の運用や社会福祉の援助活動の実際との関連ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	社会生活と法1	法の役割							
2		法の仕組み							
3	社会生活と法2	社会保障と法							
4		社会福祉と法							
5	身近な生活問題と法－相談援助活動と法	相談援助活動において想定される法律問題（福祉サービスの適切な利用、苦情解決の仕組み、虐待防止法、障害者差別解消法）							
6									
7	日本国憲法の理解	日本国憲法の基本原理							
8		基本的人権の尊重							
9	民法の理解 1	民法の通則							
10		物権、債権							
11	民法の理解 2	損害の回復							
12		法制度上の家族							
13	行政法の理解 1	行政行為及び行政手続							
14		行政救済法							
15	行政法の理解 2	情報公開法、地方行政組織							
16		個人情報保護法（秘密・プライバシー・個人情報の管理）							
17	成年後見制度 1	成年後見の概要、保佐の概要、補助の概要							
18		任意後見の概要、民法における親権や扶養の概要							
19	成年後見制度 2 日常生活自立支援事業	成年後見制度の最近の動向、意思決定支援ガイドラインの概要、成年後見制度利用支援事業の概要							
20		日常生活自立支援事業の概要							
21	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 1	家庭裁判所の役割、法務局の役割							
22		市町村の役割－市町村長申立てと体制整備							
23	権利擁護に係る組織、団体の役割と実際 2	権利擁護に係る相談を受けるさまざまな組織、弁護士の役割							
24		司法書士の役割、権利擁護における医師の役割（インフォームド・コンセントの法的概念と判例）、社会福祉士の活動の実際							
25	事例に見る権利擁護活動の実際と社会の安全 1	日常生活自立支援事業から成年後見制度への移行の実際							
26		消費者被害を受けた家族への対応の実際							
27	事例に見る権利擁護活動の実際と社会の安全 2	虐待のハイリスク家庭への支援、アルコール依存症への対応							
28		多問題重複ケースにおける権利擁護活動の実際							
29	事例に見る権利擁護活動の実際と社会の安全 3	障害児・者支援の実際、路上生活者に対する巡回相談の実際							
30		社会的養護における非行の子どもへの支援の実際							

科目名		経済学	担当教員	松井 克明		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目							受講態度	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数		30回		
テキスト・参考文献		『新版 アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書』（フォレスト出版）							
授業概要		価格、賃金はどのように決まるのか？ 経済学（財政学）の理論をもとに税金と社会保障の関係を学ぶ。							
到達目標		現代社会における経済の機能や役割について理解する。社会福祉行政について国家（地方）財政の側面から理解する。経済政策や社会政策と社会福祉・社会保障との関連について理解する。経済と貧困等社会福祉の社会的背景について理解する。							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	経済学の考え方	資本主義、金利（%）の世界、なぜ利子を払うのか							
2									
3	経済学の構成と概要	マクロとミクロ経済学の理論（需要と供給）							
4									
5	雇用（労働市場）	就職と退職、最低賃金は高いほうが良いか？低いほうが良いか？							
6									
7	税金	確定申告、所得税、住民税、消費税							
8									
9	社会保険料	社会保障、社会保険完備							
10									
11	国家財政	国家財政の機能と役割（資源配分、所得再分配、経済安定化）							
12									
13	地方財政 国と地方の政府間財政関係	地方財政の機能と役割（地方交付税を含む）							
14									
15	地域開発の経済政策	社会資本と産業、街づくり、地域活性化							
16									
17	資本市場	短期・長期金利、株価の決まり方、日経平均株価							
18									
19	経営指標（財務諸表の見方）	企業の利益最大化問題、簿記の考え方							
20									
21	個人投資	日経平均株価、NISA、確定拠出年金							
22									
23	公共政策と経済政策	金融・財政政策（財政投融资を含む）、社会資本と産業							
24									
25	外部効果（負の外部性・正の外部性）	環境政策、技術革新							
26									
27	社会政策と国民生活	住宅・生活基盤整備政策、貧困と福祉							
28									
29	国際化時代の経済	分業の有用性、国際分業と貿易、為替レートを理解する							
30									

科目名		心理学	担当教員	鈴木香穂		評価の方法	試験	70%	
実務経験 授業科目							授業態度	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30単位		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『心理学と心理的支援』（中央法規）								
授業概要	心理学によってどのようなことが明らかになってきたか、そして社会福祉や精神福祉で心理学がどのように活かされているかを学ぶ。								
到達目標	心理学がどのような学問で、社会でどう役立てられているかを簡単に説明できるようになる。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1 2	オリエンテーション、心理学の歴史と対象、心を追求する方法の発展	心理学の目的、方法および歴史を知る。							
3 4	心を追求する方法の発展	心理学に関連する学問分野について知る。							
5 6	心の生物学的基盤、感覚・知覚	脳および神経の構造とはたらきを知る。遺伝と環境の相互作用を知る。五感を通じて物事を感じる仕組みを知る。							
7 8	感情・動機づけ・欲求	感情と欲求が発生する仕組みとそのはたらきを知る。							
9 10	学習・行動、認知	行動や反応が習慣になる仕組みを知る。特定の情報に注意を向け、それを覚え、問題解決に利用する仕組みを知る。							
11 12	知能・パーソナリティ、社会の中での心理	知能や性格の分類とそれらを測る方法を知る。他人との関係が思考や行動に及ぼす影響を知る。							
13 14	前半のまとめ	前半の講義の振り返りと質疑応答							
15 16	生涯発達、心の発達の基盤	成長に伴う心の変化について知る。							
17 18	心の不適応、健康生成論	ストレスの仕組みとはたらき、およびストレスに関連する問題とその対処法を知る。							
19 20	心理的アセスメント、心理的支援の基本的技法	知能や性格を測る方法とカウンセリングの技法を知る。							
21 22	心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職	カウンセリングの技法と心理職について知る。							
23 24	子ども・家庭福祉、高齢者福祉、	子どもと保護者および高齢者に対する心理的支援について知る。							
25 26	障害児・障害者福祉、精神保健福祉	障害児や障害者に対する心理的支援と、心の健康を保つための方法や法律および制度を知る。							
27 28	支援者支援福祉、制度利用と心理的ケア	精神保健福祉の現場で働く人に対する支援の方法と、社会福祉に関する制度を知る。							
29 30	まとめ	講義の振り返りと質疑応答							

科目名		社会学	担当教員	高橋 嘉代			評価の方法	試験	70%
実務経験 授業科目								出席・提出物	30%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	前期	単位数	2単位				
必修・選択	必修			授業時間数	30時間				
配当年次	1年	授業形態	講義	授業回数	30回				
テキスト・参考文献		『社会学と社会システム』（中央法規）							
授業概要		近代社会の形成過程を踏まえ、社会の諸問題について考察する。							
到達目標		社会学的視点で現代社会の諸問題を考察できる。							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	オリエンテーション	近代社会と社会学の形成過程を学ぶ。							
2	近代社会の成立と社会学の誕生								
3	社会学の歴史	社会学の展開過程の中でとくに重要な議論・論者について学ぶ。							
4									
5	自己と他者	自己と他者、そして役割についての基礎理論とその考え方について学ぶ。							
6									
7	社会的行為と相互行為	相互行為論について学ぶ。							
8									
9	家族の構造と機能	家族の類型とその機能について学ぶ。							
10									
11	地域社会	地域社会についての基礎理論および地域社会の変化について学ぶ。							
12									
13	集団と組織	社会集団と組織について学ぶ。							
14									
15	社会変動	「社会階層」の概念を学び、社会階層が社会構造に及ぼす影響について考える。							
16									
17	人口と社会	人口から見た社会の構造について学ぶ。							
18									
19	世代と社会	世代という概念から社会の構造について学ぶ。							
20									
21	労働と社会	社会における労働の機能と我が国の労働市場の特徴を学ぶ。							
22									
23	格差と社会	雇用や教育、健康の問題として現れてくる格差について学ぶ。							
24									
25	社会的排除と社会的包摂	差別・偏見の発生因と「生きづらさ」について学ぶ。							
26									
27	「生活」と社会	主に環境・災害といった切り口から持続可能な社会について学ぶ。							
28									
29	社会問題	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ							
30									

科目名		社会福祉現場実習指導		担当教員		服部 典子 武山 和弘 野口 美雪		評価の方法	レポート課題	70%
実務経験 授業科目									提出物等	30%
対象学科		社会福祉学科		開講時期	後期	単位数	1単位			
必修・選択		必修				授業時間数	30時間			
配当年次		1年		授業形態	演習	授業回数	30回			
テキスト・参考文献		『ソーシャルワーク実習ハンドブック』（ミネルヴァ書房）『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）								
授業概要		これまで学習してきた授業内容を踏まえ、実習施設についての法律・制度・施設概要についてグループ学習を行う。								
到達目標		1. 実習施設における基本的な法律・制度・施設概要について理解する。 2. 実習施設における利用者について理解する。								
授業コマ数		テーマ		内容						
1 2		相談援助実習の位置づけ		視聴覚学習を取り入れ、ソーシャルワーカーとして求められる役割を理解する。						
3 4		実際に実習を行う実習分野に関する基本的な知識 1		実習及び実習指導の意義(スパーセッション含む。)、目的を理解し、適切な実習機関・施設等を選択できるようにする。						
5 6		実際に実習を行う実習分野に関する基本的な知識 2		実習及び実習指導の意義(スパーセッション含む。)、目的を理解し、適切な実習機関・施設等を選択できるようにする。						
7 8		実際に実習を行う施設・機関・地域社会 1		実習施設・機関、地域社会等についての基本的な事項と、必要とされる知識や技術の基礎について理解する。						
9 10		実際に実習を行う施設・機関・地域社会 2		実習施設・機関、地域社会等についての基本的な事項と、必要とされる知識や技術の基礎について理解する。						
11 12		実習オリエンテーション 1		実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解						
13 14		実習オリエンテーション 2		実習先で必要とされるソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解						
15 16		現場体験学習及び見学実習 1		実際のサービスの理解 各種サービスの利用体験						
17 18		現場体験学習及び見学実習 2		実際のサービスの理解 各種サービスの利用体験						
19 20		現場体験学習及び見学実習 3		実際のサービスの理解 各種サービスの利用体験						
21 22		現場体験学習及び見学実習 4		実際のサービスの理解 各種サービスの利用体験						
23 24		実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術 1		ケースの発見、インテーク アセスメント、プランニング						
25 26		実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術 2		支援の実施、モニタリング、支援の集結の事後評価、アフターケア						
27 28		実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術 3		アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、 コーディネーション						
29 30		実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術 4		ネゴシエーション、ファシリテーション プレゼンテーション、ソーシャルアクション						

科目名		ボランティア論	担当教員	服部 典子		評価の方法	レポート	70%	
実務経験 授業科目							出席・授業態度	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	1年		授業形態	講義	授業回数		30回		
テキスト・参考文献	『まるごとガイドシリーズ10 ボランティアまるごとガイド』（ミネルヴァ書房） 適宜資料を配布する。								
授業概要	ボランティアとは何か、その意味や活動の進め方、参加の仕方を学び、実際に地域福祉活動に参加できるよう準備を行うとともに、実践の振り返りを行う。								
到達目標	ボランティア活動とは何か、その意味を理解し、実際にボランティア活動を積極的に自ら行える。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	ボランティアプロローグ	現代におけるボランティアの意味や活動意義について学ぶ。							
2									
3	ボランティアの歴史	ボランティアの起源、近・現代におけるボランティア活動について学ぶ。							
4									
5	ボランティアのこころ①	ボランティアの定義について学ぶ。							
6									
7	ボランティアのこころ②	ボランティアの基本となる考えや心構え 自主性、社会性、連帯性、創造性、開拓性、無償、無給について学ぶ。							
8									
9	ボランティアの活動の場や機会・方法①	ボランティア先の理解（高齢者施設等） 高齢者の日常を援助する場・高齢者による活動の実際について学ぶ。							
10									
11	ボランティアの活動の場や機会・方法②	ボランティア先の理解（障害者施設等）障害者の地域生活とボランティア活動 自立生活とボランティアの役割について学ぶ。							
12									
13	ボランティアの活動の場や機会・方法③	ボランティア先の理解（児童施設・その他） 児童問題と地域社会 共同子育てとボランティア NGO活動 災害時の救護ボランティア について学ぶ。							
14									
15	ボランティアの活動の場や機会・方法④	施設見学後の振り返り 活動の魅力と積極性について考察する。							
16									
17	ボランティアの活動の実践へ	自らの地域の福祉施設について把握する。							
18									
19	ボランティアの活動の実践へ	自らの地元で求められているボランティアについて把握する。							
20									
21	ボランティアの活動の実践へ	ボランティア実践を行うにあたっての目標を考える。							
22									
23	ボランティアの活動の実践へ	ボランティア実践を行う具体的準備と留意点について学ぶ。							
24									
25	ボランティアの活動の実践へ	ボランティア活動を振り返る。							
26									
27	ボランティアの活動の実践へ	ボランティア活動を振り返り、他者に伝える。							
28									
29	まとめ	ボランティアの意義・今後の活動の在り方について考察する。							
30									

科目名		OA演習	担当教員	氏家 留美子		評価の方法	授業内の課題作成	30%
実務経験 授業科目							授業内の小テスト	40%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	前期	単位数	1単位		受講態度	30%
必修・選択	必修		授業形態	演習	授業時間数		20時間	
配当年次	1年	授業回数			20回			
テキスト・参考文献	『30時間アカデミック Office2021』Windows11対応 実教出版□							
授業概要	コンピュータを利用する立場から、簡単なハードウェア構成とその機能に関する基礎知識を理解し、情報セキュリティに関する知識を修得する。そのうえで、Wordで文章を効率的に書く、Excelで関数を操作する、Power Pointでプレゼンテーション時の資料を作成するなどのスキルを身につける。							
到達目標	コンピュータ操作の初学者が操作を習得し、Word・Excel・PowerPointの一般的な操作が出来ることを目標とする。							
授業コマ数	テーマ	内容						
1	コンピュータ操作の基本	コンピュータの基本知識と情報セキュリティ、画面の操作						
2		Word：Wordの基本操作、文書の入力						
3	文書作成の基礎	Word：文書の作成と印刷、ページ設定、ファイルの保存						
4								
5	一般的な文書作成	Word：文書の書式設定、表の作成						
6								
7	応用的な文書作成	Word：図やイラスト、飾り文字の使用による表現力アップ						
8								
9	プレゼンテーションソフトの使用1	PowerPoint：プレゼンテーションの基礎知識、スライド作成、図解表現の手法、生成AIを活用した情報収集と内容整理						
10								
11	プレゼンテーションソフトの使用2	PowerPoint：指示するテーマで効果的なプレゼンテーション作成						
12								
13	表計算の基礎1	Excel：Excelの基本操作、表作成（関数の使用、罫線や塗りつぶし、セルの書式設定、行や列操作）						
14								
15	表計算の基礎2	Excel：相対参照と絶対参照の使い分けをした数式						
16								
17	一般的な表作成	Excel：基本的な関数の使用						
18								
19	応用的な表作成1	Excel：グラフ作成						
20								

科目名		レクリエーション概論	担当教員		佐藤 聡明		評価の方法	授業内課題	70%
実務経験 授業科目								平常点	30%
対象学科		社会福祉学科	開講時期	後期	単位数	2単位			
必修・選択		必修			授業時間数	30時間			
配当年次		1年	授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献		『基本のアイスブレイキング・ゲーム』（日本レクリエーション協会）、『懐かしの歌260曲』（西東社）							
授業概要		心の元気づくりは人々の自主的、主体的な取り組みですが、一人の力では容易に心の元気を回復できない場合もあります。こうした場合に、支援者は、ゲームや歌などを手段として用いて、高齢者が心を元気にすることを支援します。また、支援者はレクリエーション活動の楽しさをしっかりと理解した上で、その楽しさを通して高齢者が心を元気にできるように手助けする。							
到達目標		レクリエーションの基礎的理解。対象者のアセスメント、計画、実施の流れを理解し、それに基づいた個別・集団のレクリエーション援助ができる能力の育成。							
授業コマ数		テーマ	内容						
1	2	レクリエーション概論	オリエンテーション レクリエーションとは						
3	4	信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ	レクリエーション支援の考え方① (ホスピタリティ、メラビアンの法則、バーバル・ノンバーバル)						
5	6	良好な集団づくりの方法・アイスブレイキング	アイスブレイキングのプログラム アイスブレイキングの効果を高める支援技術						
7	8	良好な集団づくりの理論1	レクリエーション支援の考え方② (一指示・一動作、同時発声・同時動作、ハードル設定、フロー理論)						
9	10	楽しさを通じた心の元気づくりと対象者の心の元気1	楽しさを通じた心の元気づくりの理解 ライフステージと心の元気づくり						
11	12	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論1	対象者との信頼関係 信頼関係づくりの方法 支援者同士のコミュニケーション						
13	14	良好な集団づくりの理論2	レクリエーション支援の考え方③ (説明のゲーム化・C S Sプロセス、マズローの5段階欲求)						
15	16	楽しさを通じた心の元気づくりと対象者の心の元気2	目的に沿ったアクティビティの展開方法 (子ども、高齢者、障害者)						
17	18	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論2	対象者に合わせたアレンジ						
19	20	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論1	自主的、主体的にレクリエーション活動を楽しむ力 ※グループワーク プログラム作成						
21	22	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論2	やる気の変化とやる気が生じる心の仕組み 成功体験を支え合う対象者のかかわり ※グループワーク プログラム作成						
23	24	心の元気と地域のきずな1	地域のきずなづくり 子どもを育む地域のきずな ※グループ発表						
25	26	心の元気と地域のきずな2	高齢者を支える地域のきずな きずなづくりとレクリエーション ※実習 ベルハート準備						
27	28	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法1	楽しむ力を高める目標設定の方法 レクリエーション活動を対象者に合わせるアレンジ ※実習 ベルハート						
29	30	自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法2	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法 ※グループ発表						

科目名		介護技術	担当教員	古戸 洋子 庄司 香織		評価の方法	筆記試験	70%	
実務経験 授業科目	○	実務経験が5年以上で、介護福祉士養成の専任教員として当該科目を担当した教員が、福祉従事者として生活支援の在り方・支援方法を講義・演習する。					提出物 実技試験	20%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位	出席状況	10%
必修・選択	必修				授業時間数		60時間		
配当年次	1年		授業形態	実技	授業回数		60回		
テキスト・参考文献	『介護職員初任者研修テキスト』（中央法規出版）								
授業概要	介護の基本的技術と理論を講義と演習の中から学ぶ ロールプレイを通して利用者の気持ちや立場を理解する								
到達目標	介護の対象者をしっかりと理解し、基本的介護の知識と技術の理解ができる 利用者のニーズを満たすための援助ができる								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	オリエンテーション		介護技術を学ぶ意義、授業の概要・実習室の使い方・注意事項など 生活支援者としての清潔（手洗い）を身につける。 介護者の身だしなみについて考える。						
2									
3	介護を受ける対象者の理解 ①		高齢者疑似体験：高齢者の身体的変化、バリアフリー（ユニバーサルデザイン）の必要性を知る。						
4									
5	介護を受ける対象者の理解 ②		車いす体験：生活上の不便な点等がわかる。 車いすの構造・点検方法を理解する。						
6									
7	快適な住環境整備と介護		安心・安全な生活環境がわかる。 住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点がわかる。						
8									
9	コミュニケーション		介護におけるコミュニケーション、対象者に合わせたコミュニケーションがわかる。						
10									
11	環境整備 ①		快適な居住空間 ベッドメイキングの目的と方法がわかる。						
12									
13	環境整備 ②		ベッドメイキング：リネン類の取り扱い、ベッドメイキングの方法がわかる。						
14									
15	環境整備 ③		臥床時のベッドメイキングの方法、介護用ベッドの使用方法がわかる。						
16									
17	介護に関するからだのしくみ ①		生命維持・恒常のしくみ 人体の名称と動きについてわかる。 骨・関節・筋肉についてわかる。						
18									
19	介護に関するからだのしくみ ②		ボディメカニクスについてわかる。 中枢神経と体性神経、自律神経と内部器官についてわかる。						
20									
21	移動・移乗の介護 ①		移動の意義と目的がわかる。対象者の身体状況を理解する。 身体の名詞・姿勢の名詞を知る。						
22									
23	移動・移乗の介護 ②		移動・移乗の介護技術（要支援者・介護者のからだの使い方）がわかる。						
24									
25	移動・移乗の介護 ③		起居動作の介助・垂平移動の方法、からだの使い方がわかる。						
26									
27	移動・移乗の介護 ④		座位～立ち上がり～立位・杖歩行の要支援者の身体の動きを知り、 介助方法がわかる。						
28									
29	まとめ		前期のまとめ						
30									

科目名	介護技術	担当教員	古戸 洋子 庄司 香織			評価の方法	筆記試験	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	2単位		提出物 実技試験	20%
必修・選択	必修			授業時間数	60時間		出席状況	10%
配当年次	1年	授業形態	実技	授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	入浴・清潔保持の介助 ①	身体の生理機能・清潔の意義・清潔の方法・入浴の意義と入浴の方法がわかる。特殊浴槽の使い方がわかる。						
33 34	入浴・清潔保持の介助 ②	入浴体験（男性） *女性は清拭DVD						
35 36	入浴・清潔保持の介助 ③	入浴体験（女性） *男性は清拭DVD						
37 38	入浴・清潔保持の介助 ④	入浴体験（女性） *男性は清拭DVD						
39 40	入浴・清潔保持の介助 ⑤	入浴体験（女性） *男性は清拭DVD						
41 42	食事の介助 ①	食事の意義を理解し、食事介助の目的と注意点や福祉用具を知る。						
43 44	食事の介助 ②	座位での介助（弁当による食事介助）を体験する。						
45 46	食事の介助 ③	介護食について知り、臥位での食事介助を体験する。						
47 48	排泄の介助 ①	排泄のしくみ（解剖・生理）や排泄の意義がわかる。						
49 50	排泄の介助 ②	排泄介護の実際（トイレ誘導の方法・ポータブルトイレの使い方）がわかる。						
51 52	排泄の介助 ③	排泄介護の実際（オムツの種類、使用の理解・便尿器の使用）がわかる。						
53 54	衣服の着脱 ①	衣服の着脱の意義を知り、座位での着脱介助（上衣）を体験する。						
55 56	衣服の着脱 ②	座位での着脱介助（下衣）を体験する。						
57 58	睡眠の介護 ①	睡眠の意義・心地よい睡眠と環境づくりがわかる。						
59 60	まとめ	1年の振り返り・まとめ						

科目名		病院管理実務	担当教員	佐々木 仁		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	医療機関での実務経験のある教員が病院組織の各部門の特徴や役割、医療保険制度についての知識を講義する。					出席状況	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	前期	単位数		2単位		
必修・選択	必修			授業形態	講義		授業時間数	30時間	
配当年次	1年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献	『メディカルシステム論』（一般社団法人 医療教育協会）								
授業概要	医療機関の組織と役割、医療保険制度、介護保険制度について理解する								
到達目標	保健医療ソーシャルワーカーとして基礎的な知識を習得する								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	オリエンテーション	・保健医療ソーシャルワーカー検定と科目の関連							
2	医療の歴史	・医療の歴史、医学と医療の発展①							
3	近代病院の社会的機能	・医療の歴史、医学と医療の発展②							
4		・医療機関の社会的機能（診療、研修、教育、研究、公衆衛生）							
5	医療法と医療機関	・医療法の沿革							
6		・医療法と医療機関の種類							
7	医療供給体制と救急医療体制	・医療供給体制と救急医療体制							
8		・医療機関における各部門の業務							
9	医療保険制度① 協会けんぽと組合管掌健康保険	・医療保険制度の概要と医療費							
10		・職域保険と地域保険の違い ・協会けんぽと組合管掌保険の特徴							
11	医療保険制度② 日雇特例、船員保険 各種共済組合保険	・日雇特例保険制度、船員保険制度の特徴							
12		・各種共済組合保険の特徴							
13	医療保険制度③ 高齢受給者・後期高齢者医療制度	・高齢受給者・後期高齢者医療制度の特徴							
14									
15	現物給付と現金給付① 傷病手当金制度	・現物給付と現金給付の特徴							
16		・傷病手当金制度のしくみと支給要件							
17	現物給付と現金給付② 出産育児（配偶者出産育児）一時金 出産手当金 埋葬料	・出産育児一時金のしくみと支給要件							
18		・出産手当金、埋葬料のしくみと支給要件							
19	現物給付と現金給付③ 高額療養費制度 保険外併用療養費制度	・高額療養費制度のしくみと計算方法							
20		・保険外併用療養費のしくみ							
21	保険給付制限 保険医療機関と保険医	・保険給付として認められる範囲							
22		・保険診療における二重指定制度							
23	その他の保険制度 労災保険と自賠責保険	・労災保険と自賠責保険の概要							
24									
25	介護保険制度	・介護保険の概要としくみ							
26									
27	学習のまとめ①	・保健医療ソーシャルワーカー検定対策							
28									
29	学習のまとめ②	・保健医療ソーシャルワーカー検定対策							
30									

科目名		福祉用具専門相談員特別講義	担当教員		矢口 怜		評価の方法	筆記試験	100%	
実務経験 授業科目	○	介護福祉士として当該科目に関する業務に従事した経験がある教員が、福祉従業者としての役割・機能について講義・演習を行う。								
対象学科	社会福祉学科		開講時期	後期	単位数	—				
必修・選択	選択			授業形態	講義 演習 実技	授業時間数		40時間		
配当年次	1年		授業回数			40回				
テキスト・参考文献	『新訂 福祉用具専門相談員研修用テキスト』（中央法規）									
授業概要	福祉用具の支援プロセスを理解し、高齢者等の状態像に応じた福祉用具の利用方法を学ぶ。また、演習を通して福祉用具の基本的な選定・適合技術を習得する。									
到達目標	福祉用具の種類、機能及び構造を理解し、基本的動作と日常生活場面に応じた用具の選定・適合を行うことができる。また、自立支援の考え方を踏まえ、高齢者等の身体状況や生活環境をアセスメントし、福祉用具の適切な使用計画を立てることができる。									
授業コマ数	テーマ		内容							
1	福祉用具の役割		福祉用具の定義と種類							
2			福祉用具の役割 福祉用具の利用場面							
3	福祉用具専門相談員の役割と職業倫理		介護保険制度における福祉用具専門相談員の位置付けと役割							
4			福祉用具専門相談員の仕事内容 職業倫理							
5	福祉用具の特徴①		福祉用具の種類、機能、構造（起居・移乗・移動・床ずれ・排泄）							
6										
7	福祉用具の特徴②		福祉用具の種類、機能、構造（入浴・食事・更衣・整容）							
8										
9	福祉用具の特徴③		社会参加を促す福祉用具							
10										
11	福祉用具の特徴④		テクノロジーを活用した福祉用具最新情報							
12										
13	福祉用具の活用①		福祉用具の設定・適合の視点と実施方法							
14										
15	福祉用具の活用②		福祉用具の組み立て							
16										
17	福祉用具の活用③		福祉用具の使用方法和利用上の留意点							
18										
19	福祉用具の活用④		高齢者の状態増に応じた福祉用具の利用方法							
20										
21	福祉用具の安全利用とリスクマネジメント①		福祉用具を安全に利用する上でのリスクマネジメント							
22			福祉用具事故とヒヤリハットに関する情報収集の方法と事故報告の流れ							
23	福祉用具の供給の仕組み①		福祉用具の供給やサービスの流れ							
24										
25	福祉用具の供給の仕組み②		介護保険等における福祉用具サービス提供時の留意点							
26										
27	福祉用具の供給の仕組み③		福祉用具の整備方法							
28										
29	福祉用具貸与計画等の意義と活用①		福祉用具による支援とPDCAサイクルに基づく手順の考え方							
30										

科目名	福祉用具専門相談員特別講義	担当教員	矢口 怜			評価の方法	筆記試験	100%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	後期	単位数	—			
必修・選択	選択		授業形態	講義 演習 実技	授業時間数		40時間	
配当年次	1年	授業回数			40回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 ----- 32	福祉用具貸与計画等の意義と活用②	福祉用具貸与計画等の意義と目的						
33 ----- 34	福祉用具貸与計画等の意義と活用③	福祉用具貸与計画等の記載内容						
35 ----- 36	福祉用具貸与計画等の意義と活用④	福祉用具貸与計画等の活用方法・モニタリングの意義と方法						
37 ----- 38	福祉用具貸与計画等の意義と活用⑤	状態増に応じた福祉用具の利用事例						
39 ----- 40	福祉用具貸与計画等の意義と活用⑥	事例による総合演習						

科目名		社会福祉行政論	担当教員	林 慎吾		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	福祉事務所において生活保護業務等の行政福祉に関する業務に従事した経験を有する教員が、行政における福祉制度の体系、実施体制、役割・機能及び実務の実際について講義する。					受講態度	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修			授業形態	講義		授業時間数	30時間	
配当年次	2年		授業回数			30回			
テキスト・参考文献	「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士 養成講座6 地域福祉と包括的支援体制 第2版」								
授業概要	我が国の社会福祉行政にわたる、基本的共通事項について理解する。また、社会福祉行政の諸問題についても学ぶ。								
到達目標	①社会福祉の法体系及び関係法の概要について理解する。②社会福祉の実施体制の概要について理解する。③社会福祉の財政の構造及び社会福祉における費用徴収制度について理解する。④我が国における公私の役割分担について理解する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	オリエンテーション	授業内容・講義計画などについて説明する							
2									
3	我が国における社会福祉行政の歴史的展開	我が国が歩んできた社会福祉行政の歴史について学ぶ							
4									
5	社会福祉法制の概要①	福祉六法を中軸とする社会福祉法制の概要について学ぶ							
6									
7	社会福祉法制の概要②	社会福祉法を中軸とする社会福祉の法的基盤（民生委員法、日本赤十字社法、社会福祉・医療事業団法を含む）について学ぶ							
8									
9	社会福祉法制の概要③	関連法の概要（介護保険法、売春防止法、災害救助法、戦傷病者特別援護法）について学ぶ							
10									
11	社会福祉法制の概要④	社会福祉計画（地域福祉計画、老人保健福祉計画、障害者計画、児童健全育成計画）について学ぶ							
12									
13	社会福祉の実施体制①	国と地方の役割について学ぶ							
14									
15	社会福祉の実施体制②	行政機関と関係機関について学ぶ							
16									
17	社会福祉の実施体制③	地域包括支援センターの役割と業務について学ぶ							
18									
19	社会福祉の専門職の役割	社会福祉士、介護福祉士、社会福祉主事等について理解する							
20									
21	社会福祉の財源と費用負担①	国と地方自治体の財政状況を理解する							
22									
23	社会福祉の財源と費用負担②	民間社会福祉事業の財政状況を理解する							
24									
25	社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方①	社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方の意義について学ぶ							
26									
27	社会福祉における公私の役割分担と連携のあり方②	今後、必要とされる社会福祉行政の役割について考える							
28									
29	まとめ	これまでのまとめと振り返り							
30									

科目名		社会保障論		担当教員	二渡 努		評価の方法	試験	70%
実務経験 授業科目								授業態度	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数	4単位			
必修・選択	必修				授業時間数	60時間			
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	『社会保障（第6版）』（弘文堂）								
授業概要	「社会保障とは何か」という問題意識をもちながら社会保障制度の現状について学習することで、自身の生活にどのように活かすことができるのかを考える。また、社会保障制度の課題、その在り方について考察する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて理解できる。 ・現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解できる。 ・社会保障制度の財政について理解できる。 ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解できる。 ・社会保障制度の体系と概要について理解できる。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解できる。 								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	社会保障（論）の学び方	講義概要、評価方法・基準などのガイダンスを実施するとともに、授業の基本的な考え方について説明する。							
2									
3	私たちの生活の変容	我が国の人口動態の変化（少子高齢化）、家族形態の変化、経済の変化、労働環境の変化などを講義する。							
4									
5	社会保障の概念と範囲	社会保障の概念と範囲について講義する。							
6									
7	社会保障の役割と意義、対象	社会保障の役割、意義、対象について講義する。							
8									
9	社会保障の理念	「ナショナル・ミニマム」、「普遍主義」、「ノーマライゼーション」について講義する。							
10									
11	社会保障と財政	社会保障の財源、社会保障給付費の動向と特徴について講義する。							
12									
13	社会保険と社会扶助	社会保険と社会扶助の仕組みと関係性を講義する。							
14									
15	公的保険制度と民間保険制度の関係（1）	民間保険の役割、社会保険と民間保険の相違について講義する。							
16									
17	公的保険制度と民間保険制度の関係（2）	民間保険の分類と特徴、企業年金等の役割と概要について講義する。							
18									
19	社会保障制度の展開過程（1）	イギリスを中心とした欧米の社会保障の歴史について講義する。							
20									
21	社会保障制度の展開過程（2）	日本の恤救規則から現代に至る社会保障の歴史について講義する。							
22									
23	社会手当－児童手当等	児童手当等の社会手当の現状と課題について講義する。							
24									
25	雇用保険制度の現状と課題	雇用保険の現状と課題について講義する。							
26									
27	総合保障制度としての労働者災害補償保険	労働者災害補償保険の現状と課題について講義する。							
28									
29	振り返りとまとめ	前期試験の振り返りと前期の講義内容のまとめを行う。							
30									

科目名	社会保障論	担当教員	二渡 努			評価の方法	試験	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		授業態度	30%
必修・選択	必修			授業時間数	60時間			
配当年次	2年	授業形態	講義	授業回数	60時間			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	年金の構造	公的年金（保険事故・構造・仕組み）基本的枠組みについて講義する。						
33 34	国民年金の給付内容	国民年金の対象者や保険料、国民年金の給付（老齢・障害・遺族）の内容と特徴について講義する。						
35 36	厚生年金保険の概要	厚生年金の内容と現状、課題について講義する。						
37 38	生活保護制度の目的と原理、原則	所得保障の一つである生活保護制度の目的、基本原理及び原則について、事例を用いて講義する。						
39 40	生活保護制度の扶助内容と実施体制、専門職	生活保護制度の8つの扶助と福祉事務所を中心とした実施体制、そして生活保護業務に関わる専門職について講義する。						
41 42	生活保護制度の現状と課題	生活保護制度の実態について統計データを中心として講義する。そのうえで、DVDにより現状の一端を視聴する。						
43 44	医療保険の仕組み	医療保障の類型と医療保険の仕組みを講義する。						
45 46	国民健康保険と高齢者医療制度の仕組み	国民健康保険と高齢者医療（特に後期高齢者医療）の仕組みと課題について講義する。						
47 48	公的負担医療と医療供給体制	我が国の医療保障の一つを支える公費負担医療の仕組みと、医療の供給体制の現状と課題について講義する。						
49 50	介護保険の理念	介護保険制度の創設背景と目的、そして理念を講義する。						
51 52	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要について講義する。						
53 54	介護保険制度の課題と展望	介護保険制度の課題、介護保険以外の高齢者福祉サービスのあり方について講義する。						
55 56	諸外国における社会保障制度	アメリカやイギリス等の社会保障制度の概要について講義する。						
57 58	社会保障制度の課題と未来	2025年問題と2040年問題、社会保障制度改革について講義する。						
59 60	振り返りとまとめ	後期試験の振り返りと前・後期の講義内容のまとめを行う。						

科目名	公的扶助論		担当教員	服部 典子		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目							提出物等	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修			授業形態	講義		授業時間数	30時間	
配当年次	2年					授業回数	30回		
テキスト・参考文献	『貧困に対する支援』（中央法規）『保護の手引き』（第一法規）								
授業概要	生活保護制度の仕組みと近年の動向を把握し、関連分野の組織・専門職とその連携の在り方を理解する。								
到達目標	貧困に対する支援の制度概要を知り、その役割について理解する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	公的扶助の概念	オリエンテーション 公的扶助の概念と範囲・公的扶助の意義と役割							
2									
3	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境	貧困の概念、貧困状態にある人の生活実態 貧困状態にある人を取り巻く社会環境							
4									
5	貧困の歴史	貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の歴史、 貧困に対する制度の発展過程							
6									
7	生活保護制度	生活保護法の構成、目的、原理原則、保護の種類と内容、保護施設 被保護者の権利と義務、不正・不適正受給対策							
8									
9	生活保護制度	不服申し立てと訴訟、生活保護の財源と予算、 生活保護の財源と予算、最低生活保障水準と生活保護基準、保護の 動向							
10									
11	低所得者に対する法制度	生活困窮者自立支援制度の概要、組織と実施体制、相談支援の流れ 生活困窮者自立支援制度の動向							
12									
13	低所得者に対する法制度	生活福祉資金制度、制度の変遷、制度見直しのポイント 貸付手続きの流れ、生活福祉資金に求められる役割と課題							
14									
15	低所得者に対する法制度	無料定額宿泊所、無料定額診療事業、求職者支援制度、 臨時特例つなぎ資金貸付							
16									
17	低所得者に対する法制度	公営住宅制度、総合法律支援法における法律扶助制度、 災害救助法による応急的な救助							
18									
19	低所得者に対する法制度	ホームレス自立支援法の制定、法的定義と実際の範囲 社会的排除・社会的包摂の観点からみるホームレス状態 実態調査の目的・内容							
20									
21	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	貧困に対する支援における公私の役割関係、 国・都道府県・市町村の役割							
22									
23	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	福祉事務所、自立相談支援機関の役割							
24									
25	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割	その他の貧困に対する支援関係機関の役割、専門職の役割							
26									
27	貧困に対する支援の実際	貧困に対する支援における社会福祉士の役割、支援に必要とされる 視点と基本的姿勢、貧困における支援の実際							
28									
29	振り返り	これまでの学習の振り返りを行う							
30									

科目名		家庭福祉論	担当教員	服部 典子		評価の方法	試験・レポート	70%	
実務経験 授業科目	○	児童福祉施設において5年の実務経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、家庭福祉及び家庭問題に関する法やサービスについて講義する。						提出物等	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	2年次		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『児童・家庭福祉』（中央法規）『社会福祉士国試ナビ』『令和5年版子供・若者白書』								
授業概要	家庭福祉及び家庭問題に関する法やサービスについて学び、関連分野の組織・専門職とその連携の在り方について理解する。								
到達目標	現代社会における家庭機能の実態や家族で生じる問題とその社会的背景を学び、家庭福祉の理念と意義を理解する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	オリエンテーション	授業の概要や評価の在り方について理解する。							
2									
3	子ども子育て支援	我が国の子育て支援制度の概要について理解する。							
4									
5	母子保健・保育	母子保健法の概要と子育て包括支援センターについて理解する。 保育制度の流れと概要について理解する。							
6									
7	要保護児童等と在宅支援	要保護児童等の在宅支援の状況、包括的支援と機関連携の在り方について理解する。							
8									
9	児童虐待にかかわる支援	児童虐待とは、虐待の現状、虐待対応の流れ、地域のネットワークによる支援について理解する。							
10									
11	社会的養護	社会的養護の概要と動向、家庭養護・施設用語の取り組みと権利擁護について理解する。							
12									
13	ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の現状と支援の実際について理解する。							
14									
15	DVと女性支援	女性福祉と児童福祉の関係、DVへの対応、DVが起きている家庭で育つ子供への影響と支援について理解する。							
16									
17	スクールソーシャルワーク	子ども家庭・学校を取り巻く課題とSSW、学校教育の仕組みと学校文化、SSWの展開と関係機関の連携について理解する。							
18									
19	少年非行	少年非行のイメージと実際、非行少年支援の歴史と動向、非行少年への支援と関係機関の連携について理解する。							
20									
21	若者支援	子どもから「若者」へ、そして大人へ 移行期に現れる困難と、制度間連携による若者支援について理解する。							
22									
23	障害のある子どもへの支援	障害のある子どもに対する支援体系の概要とサービス内容、現状の課題について理解する。							
24									
25	ソーシャルアクション	子ども家庭福祉におけるソーシャルアクションの必要性について理解する。							
26									
27	ワークライフバランス	父親の仕事と育児両立読本について把握し、レポートを作成する。							
28									
29	振り返り	これまでの学習の振り返りを行う							
30									

科目名		地域福祉論	担当教員	服部 典子		評価の方法	試験（レポート）	70%	
実務経験 授業科目	○	社会福祉施設等において5年以上の経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、地域福祉の基本的な考え方や組織の役割と実際等について講義する。					授業内発表	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		4単位		
必修・選択	必修				授業時間数		60時間		
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	『地域福祉と包括的支援体制』（中央法規）								
授業概要	地域福祉の理念と歴史的展開、地域福祉の構成及び具体的な推進方法などの新しい地域福祉の方向性について理解する。また、自らの地域について現状を把握・考察する。								
到達目標	地域福祉の基本的な考え方、組織の役割と実際、これからの地域福祉の推進に必要な知識と技術を習得する。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題		オリエンテーション 地域社会の変化と地域生活課題①						
2									
3	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題		地域社会の変化と地域生活課題②						
4									
5	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制		地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制						
6									
7	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制		生活困窮者自立支援の考え方						
8									
9	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制		重層的支援体制整備事業とは						
10									
11	地域福祉ガバナンスと他機関協働		包括的支援体制の中で求められる地域ガバナンスと相談職の役割						
12									
13	地域福祉ガバナンスと他機関協働		多機関協働を促進する仕組み、多職種連携						
14									
15	地域福祉ガバナンスと他機関協働		福祉以外の分野との機関協働の実際						
16									
17	地域福祉の基本的な考え方		地域福祉の概念と理論						
18									
19	地域福祉の基本的な考え方		地域福祉の歴史						
20									
21	地域福祉の基本的な考え方		地域福祉の動向						
22									
23	地域福祉の基本的な考え方		地域福祉の推進主体と福祉教育						
24									
25	地域を基盤としたソーシャルワークの展開		地域福祉の資源の役割と実際（調べ学習）						
26									
27	地域を基盤としたソーシャルワークの展開		地域福祉の資源の役割と実際（発表）						
28									
29	地域を基盤としたソーシャルワークの展開		地域福祉の資源の役割と実際（振り返り）						
30									

科目名	地域福祉論	担当教員	服部 典子			評価の方法	試験	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		出席・授業態度	30%
必修・選択	必修			授業時間数	60時間			
配当年次	1年	授業形態	講義	授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	地域を基盤としたソーシャルワークの方法						
33 34	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	住民主体形成に向けたアプローチ						
35 36	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	具体的な展開から読み解く						
37 38	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	事例を通じた分析と考察						
39 40	地域を基盤としたソーシャルワークの展開	住民の主体性を尊重し育む、多職種連携						
41 42	福祉行財政システム 1	国の役割						
43 44	福祉行財政システム 2	都道府県の役割						
45 46	福祉行財政システム 3	市町村の役割						
47 48	福祉行財政システム 4	国と地方の関係						
49 50	災害時における総合的かつ包括的な支援体制	非常時や災害時における法制度						
51 52	災害時における総合的かつ包括的な支援体制	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援						
53 54	福祉計画の意義と種類、策定と運用	福祉計画の定義、目的、機能と歴史的展開、地域福祉計画の内容						
55 56	福祉計画の意義と種類、策定と運用	福祉計画の策定とその方法						
57 58	福祉行財政システム	国、都道府県、市町村の役割・福祉における財源						
59 60	振り返り	これまでの振り返りとまとめ						

科目名		社会福祉援助技術演習		担当教員		野口美雪 服部典子 武山和弘		評価の方法	発表	70%
実務経験 授業科目									出席・提出物等	30%
対象学科		社会福祉学科		開講時期	通年		単位数		4単位	
必修・選択		必修			授業形態	演習			授業時間数	60時間
配当年次		2年				授業回数	60回			
テキスト・参考文献		学生・教員・実践者のためのソーシャルワーク演習（ミネルヴァ書房）								
授業概要		ひきこもり、認知症、終末期ケア、災害時、地域福祉演習の事例、実技指導								
到達目標		習得した社会福祉援助技術の理論、技術を演習し、応用力を身につける。演習を通じて、具体的に人権の尊重、権利擁護、自立支援等について理解し、行動できる。								
授業コマ数	テーマ	内容								
1	ひきこもりの事例 1	ケースの発見、インテーク、アセスメント								
2										
3	ひきこもりの事例 2	プランニング、支援の実施								
4										
5	ひきこもりの事例 3	モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア								
6										
7	ひきこもりの事例 4	アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション								
8										
9	ひきこもりの事例 5	ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション								
10										
11	認知症の事例 1	ケースの発見、インテーク、アセスメント								
12										
13	認知症の事例 2	プランニング、支援の実施								
14										
15	認知症の事例 3	モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア								
16										
17	認知症の事例 4	アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション								
18										
19	認知症の事例 5	ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション								
20										
21	終末期ケアの事例 1	ケースの発見、インテーク、アセスメント								
22										
23	終末期ケアの事例 2	プランニング、支援の実施								
24										
25	終末期ケアの事例 3	モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア								
26										
27	終末期ケアの事例 4	アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション								
28										
29	終末期ケアの事例 5	ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション								
30										

科目名	社会福祉援助技術演習	担当教員	野口美雪 服部典子 武山和弘			評価の方法	発表	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		出席・提出物等	30%
必修・選択	必修	授業形態	演習	授業時間数	60時間			
配当年次	2年			授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	災害時の事例 1	ケースの発見、インテーク、アセスメント						
33 34	災害時の事例 2	プランニング、支援の実施						
35 36	災害時の事例 3	モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア						
37 38	災害時の事例 4	アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション						
39 40	災害時の事例 5	ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション						
41 42	その他の危機状態にある事例 (権利擁護活動を含む) 1	ケースの発見、インテーク、アセスメント						
43 44	その他の危機状態にある事例 (権利擁護活動を含む) 2	プランニング、支援の実施						
45 46	その他の危機状態にある事例 (権利擁護活動を含む) 3	モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア						
47 48	その他の危機状態にある事例 (権利擁護活動を含む) 4	アウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション						
49 50	その他の危機状態にある事例 (権利擁護活動を含む) 5	ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション						
51 52	地域福祉演習の課題	地域における福祉需要調査						
53 54	地域福祉演習の事例 (地域福祉計画策定) 1	地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握						
55 56	地域福祉演習の事例 (地域福祉計画策定) 2	組織化、社会資源の活用、調整、開発						
57 58	実技指導	事例研究、事例検討						
59 60	実技指導	スーパービジョン						

科目名		社会福祉施設経営論		担当教員	笠松 剛士		評価の方法	試験（筆記）	70%	
実務経験 授業科目	○	社会福祉施設等において管理職以上の経験があつて、当該科目に関する業務に従事していた教員が、老人福祉及び障害福祉の体系及び制度の概要、役割・機能に講義し、併せて社会福祉士としての立ち位置で経営する視点を講義する。						受講態度	30%	
対象学科	社会福祉学科			開講時期	通年	単位数		4単位		
必修・選択	必修					授業時間数		60時間		
配当年次	2年			授業形態	講義	授業回数	60回			
テキスト・参考文献	『福祉サービスの組織と経営』（中央法規出版）									
授業概要	様々な福祉サービスの目的、理念を確認し、法令、人員配置、人材育成、経営と制度の関連について学ぶ。									
到達目標	福祉制度改革の意義と施設の役割を理解し、担い手としての基礎的知識の習得を目途とする。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	経営論を学ぶに際して			運営から経営が重視される背景について (従事者・利用者：財源などに関して)						
2										
3	施設の沿革			施設の展開 時代背景と制度化						
4										
5	施設の沿革			戦後の福祉制度の再編成 施設整備の展開						
6										
7	社会福祉基礎構造改革			制度改革の必要性と内容（理念、枠組みの転換） 現状と課題						
8										
9	施設の意義と役割			意義と社会的役割						
10										
11	施設体系と制度			施設体系の現状と仕組み、制度について						
12										
13	運営財源—措置制度			制度の仕組み 費用負担						
14										
15	運営財源—利用制度			種類内容の仕組み						
16										
17	法人に於ける施設経営とサービス			法人の位置づけ 性格等について（経営目標と戦略）						
18										
19	法人に於ける施設経営とサービス管理			利用者の選択に対応するサービス管理（サービス評価情報及びリスク管理）						
20										
21	法人に於ける施設経営と財務管理			経営状況の把握と財源確保						
22										
23	法人に於ける施設経営と人事管理			管理の重要性（意欲付けと能力発揮、人件費管理）						
24										
25	(利用者のニーズと施設サービス)			利用者の動向とニーズ・施設サービスの方向について						
26										
27	施設サービスの基本			サービス展開の基礎（相互関係）						
28										
29	施設サービスの計画			策定の意義						
30										

科目名	社会福祉施設経営論	担当教員	笠松 剛士			評価の方法	試験（筆記）	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		受講態度	30%
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数		60時間	
配当年次	1年	授業回数			60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 ----- 32	施設業務の運営	運営の基本と実施過程						
33 ----- 34	施設業務の実際	日常業務の実践 現状と在り方						
35 ----- 36	施設業務組織の役割	チーム実践の在り方と組織						
37 ----- 38	地域福祉と施設	施設サービスの意義と位置付け						
39 ----- 40	地域福祉と施設（役割）	施設サービスと在宅サービスの一元化 在宅サービスの展開						
41 ----- 42	施設に於ける人事管理	要員配置 賃金制度 人事考課等						
43 ----- 44	施設に於ける労務管理	法制度と勤務条件、勤務姿勢等（就業規則等を中心に）						
45 ----- 46	施設に於ける労使関係の基礎	法人、施設の労使関係の実状 労働3権と不当労働行為						
47 ----- 48	施設に於ける安全衛生と福利	職員の安全及び福利厚生システムについて						
49 ----- 50	施設に於ける財務管理	財務の基礎知識（会計基準の概要等）、財務諸表の意義						
51 ----- 52	施設に於ける財務管理	資金運用と予算・執行						
53 ----- 54	施設に於ける建物設備管理	建設の在り方と動向、現状の課題						
55 ----- 56	施設に於ける人材育成	育成の意義と内容 研修の仕組み						
57 ----- 58	福祉従事者の動向	動向と人材確保						
59 ----- 60	福祉専門職の在り方	専門職と倫理						

科目名		社会福祉現場実習指導		担当教員		服部 典子 野口 美雪 武山 和弘		評価の方法	レポート課題	70%
実務経験 授業科目									出席	30%
対象学科		社会福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位			
必修・選択		必修				授業時間数	60時間			
配当年次		2年		授業形態	演習	授業回数	60回			
テキスト・参考文献		『ソーシャルワーク実習 ハンドブック』ミネルヴァ書房 『事例で深めるソーシャルワーク実習』（中央法規）								
授業概要		事前学習から事後指導までを含む。実習のてびき・テキスト・実習生報告例等を教材に講義・演習形式で進めていく。								
到達目標		福祉専門職としての自覚を持ち、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題を把握し、対応できる。								
授業コマ数		テーマ		内容						
1	2	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 1		実習におけるプライバシー情報に関する留意点						
3	4	実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解 2		実習における守秘義務等の理解						
5	6	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 1		実習記録ノートの使用 方法 何を書かなければならないか						
7	8	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 2		実習記録ノートの使用 方法 どのように書かなければならないか						
9	10	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 3		実習記録ノートの使用 方法 いつ書かなければならないか						
11	12	実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解 4		実習記録ノートの活用方法						
13	14	実習計画書の作成 1		実習で習得しなければならないことと自分が実習で学びたいものを照らし合わせ、計画案を作成する						
15	16	実習計画書の作成 2		実習生本人による実習計画案の作成						
17	18	実習計画書の作成 3		実習生本人による実習計画案の作成						
19	20	実習計画書の作成 4		実習生本人による実習計画案の作成						
21	22	実習計画書の作成 5		実習担当教員の指導に基づき実習計画案の作成						
23	24	実習計画書の作成 6		実習担当教員の指導に基づき実習計画案の作成						
25	26	実習計画書の作成 7		実習担当教員の指導に基づき実習計画案の作成						
27	28	実習計画書の作成 8		実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成						
29	30	実習計画書の作成 9		実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成						

科目名	社会福祉現場実習指導	担当教員	服部 典子・野口 美雪・武山 和弘			評価の方法	レポート課題	70%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	2単位		出席	30%
必修・選択	必修			授業時間数	60時間			
配当年次	2年	授業形態	演習	授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	実習計画の作成 10	実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成						
33 34	巡回指導（オリエンテーション）	オリエンテーション						
35 36	巡回指導 1	第1週目、第2週目巡回指導						
37 38	巡回指導 2	第3週目、第4週目巡回指導						
39 40	巡回指導 3	第5週目、第6週目巡回指導						
41 42	実習計画の実習後の評価 1	実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の評価						
43 44	実習計画の実習後の評価2	実習生、実習担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の評価						
45 46	実習体験や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 1	実習記録による実習総括レポートの作成						
47 48	実習体験や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 2	実習記録による実習総括レポートの作成						
49 50	実習体験や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 3	実習記録による実習総括レポートの作成						
51 52	実習体験や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 4	実習記録による実習総括レポートの作成						
53 54	実習の評価及び全体総括会 1	実習記録による実習総括レポートの発表						
55 56	実習の評価及び全体総括会 2	実習記録による実習総括レポートの発表						
57 58	実習の評価及び全体総括会 3	実習記録と実習総括レポートに基づく自己評価						
59 60	実習の評価及び全体総括会 4	実習記録と実習総括レポートに基づく自己評価						

科目名		手話	担当教員	奥田 育代		評価の方法	実技試験	70%	
実務経験 授業科目	○	宮城県通訳者養成講座などで手話指導しているろう者がろう者の言語である手話を通して、耳の聞こえないことに関する知識と理解を深めるための講義をする。						授業態度	15%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位	出席状況	15%
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30時間			
テキスト・参考文献	『改訂新版 はじめての手話』（生活書院）								
授業概要	聴覚障害者の言語である手話に直接触れて、日本語とは異なる言語体系であることを理解し、手話での簡単な挨拶や会話を修得する。「ろう者」の価値観、障害の特徴などを理解し、「ろう者」とのコミュニケーションについて知る。また、ろう者と接する場面での対応について学ぶ。								
到達目標	聴覚障害者の言語である手話を学び、ろう者の生活文化を理解する。ろう者の価値観、障害の特徴、聴覚障害者と接する時の対応について理解する。								
授業コマ数	テーマ		内容						
1	名前、挨拶		【実技】自分の名前、友達の名前（何？）						
2									
3	家族		【実技】家族構成（誰？）						
4									
5	自己紹介		【実技】出身地（どこ？）						
6									
7	カレンダー		【実技】年月日（いつ？）						
8									
9	タイムテーブル		【実技】時刻（何時？）						
10									
11	通勤通学		【実技】乗り物、交通手段（どうやって？）						
12									
13	嗜好品・指文字		【実技】好きなもの、嫌いなもの（なぜ？）						
14									
15	食習慣		【実技】食べ物、量（何？）						
16									
17	スポーツ		【実技】部活、スポーツ鑑賞（どんなスポーツ？）						
18									
19	感情・気持ち		【実技】喜怒哀楽（どんな気持ち？）						
20									
21	趣味		【実技】自分の趣味について						
22									
23	聴覚障害者と交流		【実技】聴覚障害者とコミュニケーション						
24									
25	聴覚障害者の日常生活		【講義】聴者と違う日常生活とは何か？質疑応答						
26									
27	実技試験		【実技】筆記試験（手話読み取り）、実技テスト（手話表現）						
28									
29	まとめ		【講義】耳の聞こえない人へのコミュニケーションを図るためには？						
30									

科目名		刑事司法と福祉	担当教員	阿部 恭子			評価の方法	試験	70%
実務経験 授業科目	○	日本における犯罪加害者家族支援を実践する立場から、刑事司法制度の在り方と福祉の課題、司法と福祉の連携の意義について解説する。						授業態度	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位			
必修・選択	必修		授業形態	講義	授業時間数	30時間			
配当年次	2年				授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『刑事司法と福祉』（中央法規） 阿部恭子・岡田行雄『刑事法をめぐる被害に向き合おう！被害者・加害者を超えて』								
授業概要	更生保護を中心に諸制度の仕組みや意義を学習する。更生保護は、刑務所を出所したひとや非行少年などに対し、指導や援助をすることにより再犯を防止、社会生活を送れるように働きかける仕組み全体を指す。更生保護の対象と福祉の対象は重なることが多く、支援内容にも共通する事柄が多い。とくに近年は、犯罪を犯した高齢者や障害者を福祉につなぐ役割として、ソーシャルワーカーの役割が重要となってきた。ソーシャルワーカーとして活動するために必要となる更生保護に関する基本的な事項を学ぶ。								
到達目標	1 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2 刑事司法におけるソーシャルワーカーの役割について理解する。 3 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	刑事法 1	刑法（刑法とは、刑法典の内容、刑法理論の基本原則、刑法の任務、責任主義、最近の動向）							
2									
3	刑事法 2	少年法（少年非行の概念、非行少年の処理手続、少年法の一部改正）、刑事事件・刑事訴訟の過程							
4									
5	更生保護制度の概要 1	刑事司法の中の更生保護（更生保護とは、わが国における更生保護の歴史及び現状、「刑の一部の執行猶予」制度の施行）							
6									
7	更生保護制度の概要 2	保護観察（目的、方法、対象とその内容）、生活環境の調整（矯正施設収容中の者、保護観察付執行猶予者の裁判確定前）							
8									
9	更生保護制度の概要 3	仮釈放（仮釈放制度の概要、仮釈放等の運用）、更生緊急保護（更生緊急保護の対象等、更生緊急保護の内容）							
10									
11	更生保護制度の概要 4	犯罪被害者等施策 1（更生保護における犯罪被害者等施策の導入、仮釈放等審理における意見等聴取制度）							
12									
13	更生保護制度の概要 5	犯罪被害者等施策 2（保護観察対象者に対する心情等伝達制度、更生保護における被害者等通知制度／相談・支援）							
14									
15	更生保護制度の概要 6	恩赦（政令恩赦と個別恩赦、恩赦の種類と手続）、犯罪予防活動（犯罪予防活動の内容、更生保護の基盤としての地域社会との連携）							
16									
17	更生保護制度の担い手	保護観察官（保護観察官の配置と任用、保護観察官の業務）、保護司（保護司制度の概要、保護司の活動）							
18									
19	更生保護制度における関係機関・団体との連携 1	更生保護施設（更生保護施設の制度的性格と職員、更生保護施設の入所者の状況、更生保護施設における処遇及び課題）、民間協力者							
20									
21	更生保護制度における関係機関・団体との連携 2	検察庁との連携、裁判所との連携、矯正施設との連携（刑事施設との連携、少年院との連携）、就労支援機関・団体との連携							
22									
23	更生保護制度における関係機関・団体との連携 3	福祉機関・団体との連携、その他の民間団体との連携							
24									
25	医療観察制度の概要 1	医療観察制度の意義（保護観察所の役割、社会復帰調整官）、生活環境調査（地方裁判所における当初審判、生活環境の調査）							
26									
27	医療観察制度の概要 2	生活環境調整（指定入院医療機関における医療、生活環境の調整）、地域社会における処遇－精神保健観察の実施等							
28									
29	更生保護における近年の動向と課題	更生保護における近年の動向							
30		更生保護の今後の課題							

科目名		社会調査法		担当教員	武山 和弘		評価の方法	試験（筆記）	70%
実務経験 授業科目								受講態度	30%
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数	2単位			
必修・選択	必修				授業時間数	30時間			
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 5 社会福祉調査の基礎』（中央法規）								
授業概要	ソーシャルワーカーに必要な社会調査の基礎知識を学ぶ。								
到達目標	社会福祉調査の意義と目的、社会福祉との歴史的関係、倫理や個人情報保護、調査の実施について具体的に学び、福祉専門職として、また調査結果の読み手としても社会調査を適切に使うことができるよう、基礎知識を習得する。								
授業コマ数	テーマ	内容							
1	社会福祉調査の意義と目的	社会調査と社会福祉調査の関係を踏まえて、社会福祉調査の意義と目的について理解する							
2									
3	統計法 社会福祉調査における倫理と個人情報保護	統計法の概要と改正のポイントを知る							
4		社会福祉調査における倫理や個人情報保護の基本的な考え方を知る							
5	調査における考え方・論理 社会福祉調査のプロセス	社会福祉調査における考え方や調査のプロセスを理解する							
6									
7	社会福祉調査の目的と対象、データ収集・分析	探索的教唆、記述的調査、説明的調査、調査対象としての分析単位、標本抽出について理解し、データ収集と分析方法の概略を知る							
8									
9	量的調査の方法①	量的調査の概要を理解し、ソーシャルワーク実践に対する量的調査の貢献と限界、全数調査と標本調査の特徴、標本の代表性、横断調査と縦断調査について知る							
10									
11	量的調査の方法②	質問紙の作成方法と留意点を理解する							
12		質問紙の配布（配付）と回収の方法について、それぞれの特徴を理解する							
13	量的調査の方法③	量的調査の集計と分析手法、解釈の方法を知る							
14									
15	質的調査の方法①	質的調査の概要と方法を理解する							
16		質的調査のサンプリングの特徴を知る							
17	質的調査の方法②	質的調査のデータ収集の方法、特徴を理解する							
18									
19	質的調査の方法③	質的調査における記録方法と留意点を学ぶ							
20									
21	質的調査の方法④	質的調査のデータの分析方法を知る							
22									
23	ソーシャルワークにおける評価①	ソーシャルワークにおける評価の意義について学ぶ							
24									
25	ソーシャルワークにおける評価②	ソーシャルワークにおける評価対象と評価の種類について学ぶ							
26									
27	ソーシャルワークにおける評価③	評価方法の選び方、質的な評価方法、量的な評価方法について学ぶ							
28									
29	まとめ	社会福祉調査に求められることを考える							
30									

科目名		教養講座	担当教員	野口 美雪		評価の方法	試験	80%	
実務経験 授業科目							出席・授業態度	20%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		2単位		
必修・選択	必修				授業時間数		30時間		
配当年次	2年		授業形態	講義	授業回数	30回			
テキスト・参考文献		『こころ検定 公式テキスト3級』（教育ナビゲーション株式会社）							
授業概要		こころについての学びを深め、基礎心理学における発達、パーソナリティ、教育、適応、心理検査の知識や技能を身につけ、自身のこころの成長を図っていく。							
到達目標		こころの理解を深め、科学的にこころを理解し、相手のこころに向き合い、行動できる人間性を培うことで相手との関わり合い、自らの行動や言動を理解をすることを目標とする。							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	健やかな生活とこころ①	適応と不適応							
2									
3	健やかな生活とこころ②	ストレスとこころの関係							
4									
5	健やかな生活とこころ③	ストレスマネジメント							
6									
7	こころの成長①	子どものこころの発達							
8									
9	こころの成長②	子どもから大人へと発達するこころ							
10									
11	こころの成長③	大人から高齢者へと発達するこころ							
12									
13	性格とこころの関係①	性格に関する様々な理論							
14									
15	性格とこころの関係②	パーソナリティを測定する方法							
16									
17	性格とこころの関係③	パーソナリティとこころの関係							
18									
19	教える・教わることとこころの関係①	学力とこころの関係							
20									
21	教える・教わることとこころの関係②	教育とこころの関係							
22									
23	教える・教わることとこころの関係③	学校で起きる様々な問題とこころの関係							
24									
25	こころを測定する①	こころの測定に関する歴史							
26									
27	こころを測定する②	こころを測定する方法							
28									
29	こころを測定する③	こころを測定した結果を活かす							
30									

科目名		卒業研究		担当教員		服部 典子 野口 美雪		評価の方法	研究評価表	100%
実務経験 授業科目										
対象学科		社会福祉学科		開講時期	通年	単位数	1単位			
必修・選択		必修				授業時間数	30時間			
配当年次		2年		授業形態	演習	授業回数	30回			
テキスト・参考文献		『福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』（中央法規）								
授業概要		在学中の学習や実習の成果に基づき、学生自身が研究テーマを設定し、ゼミ担当教員の指導・アドバイスを受けながら、研究を行う。								
到達目標		学生自身が自分の興味・関心などから問題意識を具体化・明確化し、それに基づいた研究テーマを設定して先行研究分析を行う。文献購読、調査等を行い、研究を完成する。完成後に口頭試問を実施して研究の成果を発表する。								
授業コマ数		テーマ		内容						
1		研究分野の決定		高齢者・障害者・児童など興味のある研究分野を絞る 研究分野の申請（研究テーマなどを決定して申請用紙に記入）						
2										
3		ゼミへの配属決定		各担当教員の専攻分野に基づいて、ゼミ毎に分かれる ゼミの指導方針などの説明						
4										
5		ゼミ毎の研究指導①		研究テーマの設定を行う 担当教員の指導やアドバイスを基に研究テーマを設定する						
6										
7		ゼミ毎の研究指導②		先行研究分析 研究テーマに関する文献や情報の収集（文献目録の作成など）を開始する						
8										
9		ゼミ毎の研究指導③		先行研究分析 収集した文献や情報の分析（研究目的や研究方法などの決定）を行う						
10										
11		ゼミ毎の研究指導④		担当教員による先行研究分析の指導や方向づけ 論文の具体的内容などに対する指導を受ける						
12										
13		ゼミ毎の研究指導⑤		先行研究分析及び執筆 研究目的や方法などに従って、論文の執筆を始める						
14										
15		ゼミ毎の研究指導⑥		先行研究分析及び執筆 研究目的・方法、大まかな概要について指導を受ける						
16										
17		ゼミ毎の研究指導⑦		中間報告会に向けての指導を受ける 研究目的・方法、大まかな概要について指導を受ける						
18										
19		ゼミ毎の研究指導⑧		各自、論文の研究目的や方法、研究仮説などを報告する						
20										
21		ゼミ毎の研究指導⑨		論文の執筆（論文の骨組みをしっかりとらせる） 論文の執筆（目次や序論、研究目的や仮説の設定など）						
22										
23		ゼミ毎の研究指導⑩		論文の執筆（具体的内容の執筆） 論文の執筆（論文の骨組みに基づいて、論文を執筆する）						
24										
25		ゼミ毎の研究指導⑪		論文の執筆（結論やまとめに向けての作業） 論文の執筆（論文全体を通しての倫理構成の組み立てを見るなど）						
26										
27		ゼミ毎の研究指導⑫		論文の執筆（論文の形式を整える） 論文の執筆（目次や項目、引用文献・参考文献などを載せる）						
28										
29		最終報告会と評価		口頭試問 各自、論文の研究目的・方法・研究仮説・結論などを報告する						
30										

科目名		レクリエーション実技	担当教員	佐藤 聡明		評価の方法	授業内課題	70%	
実務経験 授業科目							平常点	30%	
対象学科	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		1単位		
必修・選択	必修		授業形態	実技	授業時間数		30時間		
配当年次	2年				授業回数		30回		
テキスト・参考文献		『お年寄りとコミュニケーションが深まる！楽しく盛り上がるレクリエーション100』（ナツメ社）、 『童謡・唱歌・懐かしの歌』（西東社）							
授業概要		レクリエーションの基礎的な理解をはじめ、本人自身のレクリエーション活動を見直し、生活を活性化すると共に、援助を必要とする高齢者・障害者に対して生きがいのある豊かな生活とは何かを考え援助方法を探る。レクリエーション・余暇自立に必要な知識の理解、能力を育成し、レクリエーション・サービスが提供できる能力の取得を目指す。							
到達目標		レクリエーションの基礎的理解。対象者のアセスメント、計画、実施の流れを理解し、それに基づいた個別・集団のレクリエーション援助ができる能力の育成。							
授業コマ数	テーマ	内容							
1	ホスピタリティの理解	ホスピタリティ、バーバル・ノンバーバル、メラビアンの法則							
2									
3	アイスブレイキングの理解	アイスブレイキングとは、アイスブレイキング・モデルとは							
4									
5	アイスブレイキングの効果を高める支援技術	同時発声・同時動作、一指示一動作							
6		説明のゲーム化							
7	楽しむ力を高める目標設定の方法	ハードル設定、ハードル設定、CSSプロセス							
8									
9	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術の活用方法	懐かしの歌、思い出話							
10									
11	対象者の余暇活動の促進	クラフト作成							
12									
13	危機管理	対象者のアセスメントと危険予測							
14									
15	レクリエーション活動展開案作成	対象者に合わせたアイスブレイキングの選択と工夫							
16									
17									
18									
19	プログラム立案	対象者や場面・目的に合わせたプログラムの立案							
20									
21									
22									
23	レクリエーション活動指導案（進行表）作成と実演	指導案（進行案）の見本で作成ポイントについて理解を深める							
24		指導案の作成、指導案に基づいて実演、自己評価							
25									
26									
27									
28									
29									
30									

科目名		ソーシャルワークの理論と方法		担当教員	宇田川 佳浩		評価の方法	試験	80%	
実務経験 授業科目	○	社会福祉施設等において5年以上の経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、社会福祉援助の理念や価値、技術等について講義する。						出席・授業態度	20%	
対象学科	社会福祉学科			開講時期	通年	単位数		4単位		
必修・選択	必修					授業時間数		60時間		
配当年次	2年			授業形態	講義	授業回数		60回		
テキスト・参考文献	『ソーシャルワークの理論と方法』（中央法規）									
授業概要	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ、ソーシャルワークの過程、コミュニティワークの概念と展開過程、スーパービジョンについて理解をする。									
到達目標	1 人と環境との交互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解していること。 2 ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解していること。 3 ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解していること。 4 コミュニティワークの概念とその展開について理解していること。 5 ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解していること。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 1			ソーシャルワーカーが学ぶ理論、システム理論						
2										
3	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 2			生態学理論、バイオ・サイコ・ソーシャルモデル						
4										
5	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 3			マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、ソーシャルワークの目標と展開過程						
6										
7	ソーシャルワークの過程 1			ケースの発見、エンゲージメント（インテーク）						
8										
9	ソーシャルワークの過程 2			アセスメントの意義と目的、アセスメントの方法、アセスメントの留意点						
10										
11	ソーシャルワークの過程 3			プランニングの意義と目的						
12										
13	ソーシャルワークの過程 4			プランニングのプロセスと方法、プランニングにおける留意点						
14										
15	ソーシャルワークの過程 5			支援の実施、モニタリング、効果測定						
16										
17	ソーシャルワークの過程 6			支援の終結						
18										
19	ソーシャルワークの過程 7			支援の結果評価、アフターケア						
20										
21	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 1			ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ、ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 1						
22										
23	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 2			ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 2						
24										
25	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 3			ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 3						
26										
27	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 4			ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチ 4						
28										
29	ソーシャルワークの面接			面接の意義と目的、面接の方法と実際						
30										

科目名	ソーシャルワークの理論と方法	担当教員	宇田川 佳浩			評価の方法	試験	80%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	4単位		出席・授業態度	20%
必修・選択	必修	授業形態	講義	授業時間数	60時間			
配当年次	2年			授業回数	60回			
授業コマ数	テーマ	内容						
31 32	ソーシャルワークの記録 1	記録の意義と目的						
33 34	ソーシャルワークの記録 2	記録の内容						
35 36	ソーシャルワークの記録 3	記録のフォーマット						
37 38	ケアマネジメント	ケアマネジメントの原則、ケアマネジメントの意義と方法						
39 40	グループを活用した支援 1	グループワークの意義と目的、グループワークの展開過程						
41 42	グループを活用した支援 2	グループワークとセルフヘルプグループ						
43 44	コミュニティワーク 1	コミュニティワークの意義と目的、コミュニティワークの展開						
45 46	コミュニティワーク 2	コミュニティワークの理論的系譜とモデル						
47 48	ソーシャルアドミニストレーション 1	ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義						
49 50	ソーシャルアドミニストレーション 2	組織介入・組織改善の実践モデル、組織運営における財源の確保						
51 52	ソーシャルアクション 1	ソーシャルアクションの概念とその意義						
53 54	ソーシャルアクション 2	コミュニティ・オーガナイズング						
55 56	スーパービジョンとコンサルテーション 1	スーパービジョンの意義、目的、方法						
57 58	スーパービジョンとコンサルテーション 2	コンサルテーションの意義、目的、方法						
59 60	振り返り	これまでの振り返りとまとめ						

科目名		ソーシャルワークの理論と方法（専門）		担当教員	宇田川佳浩 伊藤 純一		評価の方法	試験	70%	
実務経験 授業科目	○	社会福祉施設等において5年以上の経験があつて、当該科目に関する業務に従事した経験を持つ教員が、社会福祉援助の理念や価値、技術等について講義する。				対象学科		出席・授業態度	30%	
必修・選択	社会福祉学科		開講時期	通年	単位数			4単位		
配当年次	必修		授業形態	講義	授業時間数			60時間		
授業回数	2年		授業回数		60回					
テキスト・参考文献	『ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』（中央法規）									
授業概要	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際やソーシャルワークに関連する技法などを理解する。									
到達目標	1. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。 2. 支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。 3. 社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 4. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。									
授業コマ数	テーマ	内容								
1 2	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 1	総合的かつ包括的な支援の考え方 1（多様化・複雑化した生活課題への対応とそのプロセスとスキル）								
3 4	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 2	総合的かつ包括的な支援の考え方 2（今日的な地域社会における課題とその対応、分野や領域の境界線を越えた問題解決のかかわり）								
5 6	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 3	家族支援の実際 1（ソーシャルワーク実践で出会う「家族」、家族が抱える複合的な課題、家族に関する基礎的な理論）								
7 8	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 4	家族支援の実際 2（家族理解のためのツール、家族支援の実際、家族支援において大事なこと）								
9 10	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 5	地域支援の実際 1（地域支援とは何か、地域支援の実際）								
11 12	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 6	地域支援の実際 2（地域支援の特徴と必要なスキル、地域支援において大切にすべき「価値」）								
13 14	総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際 7	非常時や災害時支援の実際（非常時や災害時のソーシャルワーク、災害ソーシャルワークの目的と留意点及びその実際）								
15 16	ソーシャルワークにおける援助関係の形成	援助関係形成の意義と概念 1（ソーシャルワークの対象と援助関係、ソーシャルワークの定義及び構成要素からみた援助関係形成の意義と留意点）								
17 18	ソーシャルワークにおける援助関係の形成	援助関係形成の意義と概念 2（クライアントシステムならびにソーシャルワークの実践レベルと援助関係）								
19 20	ソーシャルワークにおける援助関係の形成	援助関係形成の形成方法と留意点 1（社会福祉士の倫理綱領を踏まえた援助関係の形成方法と留意点、援助関係の形成における自己覚知・自己理解と他者理解の意義）								
21 22	ソーシャルワークにおける援助関係の形成	援助関係形成の形成方法と留意点 2（ソーシャルワーカーの役割からみた援助関係の形成方法、援助関係成立のための方法）								
23 24	ソーシャルワークにおける援助関係の形成	援助関係形成の形成方法と留意点 3（対人関係の理論や方法から導かれる援助関係の形成方法、クライアントシステムとの援助関係の形成）								
25 26	ネットワークの形成 1	ネットワーキング								
27 28	ネットワークの形成 2	コーディネーション 1（コーディネーションの意義と目的、コーディネーションの重層性）								
29 30	ネットワークの形成 3	コーディネーション 2（コーディネート人材養成としてのIPWとIPE、								

科目名	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	担当教員	宇田川佳浩 伊藤 純一		評価の方法	試験	70%	
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数		4単位	出席・授業態度	30%
必修・選択	必修		授業形態	講義		授業時間数		
配当年次	2年	授業回数				60回		
授業コマ数	テーマ	内容						
31	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 1	社会資源の活用・調整						
32								
33	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発 2	ソーシャルワーク実践と社会資源、社会資源開発のさまざまな方法						
34								
35	カンファレンス 1	会議の種類と方法 1						
36								
37	カンファレンス 2	会議の種類と方法 2						
38								
39	カンファレンス 3	マイクロ・メゾ・マクロの会議						
40								
41	事例分析	事例分析とは、事例分析の目的・意義、事例の選定と分析の準備、事例分析のポイント						
42								
43	事例検討	事例検討とは、事例検討の目的・意義、事例検討会、事例検討を行う際の留意点						
44								
45	事例研究 1	事例研究とは、事例研究の目的・意義、研究の目的とデザイン						
46								
47	事例研究 2	前向き研究と後ろ向き研究、事例研究の実施手順、事例研究を行う際の留意点						
48								
49	ソーシャルワークに関連する技法 1	ネゴシエーション						
50								
51	ソーシャルワークに関連する技法 2	コンフリクト・レゾリューション						
52								
53	ソーシャルワークに関連する技法 3	ファシリテーション						
54								
55	ソーシャルワークに関連する技法 4	プレゼンテーション						
56								
57	ソーシャルワークに関連する技法 5	ソーシャル・マーケティング						
58								
59	振り返る	これまでの振り返りとまとめ						
60								

科目名		介護技術		担当教員	古戸 洋子		評価の方法	筆記試験	70%	
実務経験 授業科目	○	実務経験5年以上、介護福祉士養成の専任教員として当該科目を担当した教員が、福祉従事者として生活支援の在り方・支援方法を講義・演習を行う。							提出物	20%
対象学科	社会福祉学科			開講時期	通年	単位数		1単位	出席状況	10%
必修・選択	必修					授業時間数		30時間		
配当年次	2年			授業形態	実技	授業回数		30回		
テキスト・参考文献	『介護職員初任者研修テキスト』（中央法規出版）									
授業概要	講義、演習を通して介護の基本的知識と理論を学ぶ。ロールプレイを通して、利用者の気持ちを理解していく。また、事例を通し適切な介護方法について検討する。									
到達目標	社会福祉援助者として、実践的援助の一つである「介護」について演習を通して理解できる。また、ロールプレイなどを通し利用者の理解を深める。									
授業コマ数	テーマ			内容						
1 2	オリエンテーション			授業概要の説明 観察・アセスメント・ICFについて理解する。						
3 4	介護過程			介護過程の目的・意義・展開がわかる。 介護過程とチームアプローチについてわかる。						
5 6	基本となる介護技術 ①			生活支援技術の意味 事例ABについて記録にまとめ、介護の展開について考える。						
7 8	基本となる介護技術 ②			廃用症候群の予防・介護の専門性を理解する。感染経路を知り、予防方法がわかる。						
9 10	基本となる介護技術 (演習①)			事例ABについて、生活の中での身じたく場面をロールプレイする。						
11 12	基本となる介護技術 (演習②)			事例ABについて、生活の中での食事場面をロールプレイする。						
13 14	基本となる介護技術 (演習③)			事例ABについて、生活の中での排泄（トイレ・ポータブル）をロールプレイする。						
15 16	基本となる介護技術 (演習④)			事例ABについて、生活の中での排泄（オムツ交換・フォーレ使用者）の対応を理解する。						
17 18	基本となる介護技術 (演習⑤)			事例ABについて、生活の中での移動（入浴清潔）をロールプレイする。						
19 20	基本となる介護技術 (演習⑥)			睡眠の意義・目的がわかり、足浴を体験する。						
21 22	介護に必要な疾患と対応 ①			高血圧・糖尿病の基礎知識及び生活上の注意点がわかる。						
23 24	介護に必要な疾患と対応 ②			心疾患・脳血管疾患の基礎知識及び生活上の注意点がわかる。						
25 26	医療関係者との連携			バイタルサインのチェック、救急対応、AEDの使い方を通し物品の使用方法がわかり、対応へとつながる。						
27 28	他職種・家族との連携 終末期の介護			同職種・リハビリ・相談員・家族との関係性についてわかる。 終末期の身体状況が理解でき、対応（他職種との連携）がわかる。						
29 30	まとめ			振り返り、ポイントの整理						

科目名		社会福祉現場実習		担当教員	野口美雪 服部典子 宇田川佳浩 武山和弘		評価の方法	実習指導者	50%	
実務経験 授業科目								実習担当教員	50%	
対象学科		社会福祉学科		開講時期	通年	単位数		8単位		
必修・選択		必修				授業時間数		240時間		
配当年次		2年		授業形態	実習	授業回数		30日間		
テキスト・参考文献		実習要綱（仙台医療福祉専門学校） 『事例で深めるソーシャルワーク実習』（中央法規）								
授業概要		<p>1 実習生は主に生活相談員等実習指導者の指導により、施設内の業務を理解する。</p> <p>2 実習は、機能の異なる2か所の実習施設で相談業務を中心に行う。</p> <p>3 プログラム</p> <p>1) オリエンテーション、施設内見学を通して学ぶ</p> <p>2) 施設の一日の流れを理解する</p> <p>3) ソーシャルワーク業務</p>								
到達目標		<p>1 ソーシャルワーカーとして仕事をする上で必要な知識、援助技術を身につけている。</p> <p>2 講義、演習、学校内実習で学んだ知識を生かして利用者との人間的な関わりを築き、利用者が求めている社会福祉の需要を理解し、そのために何か必要か判断できる。</p> <p>3 社会福祉の知識や技術を活用し、援助業務を行うことができる。</p> <p>4 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができる。</p> <p>5 関連分野の専門職と連携できる。</p>								
授業コマ数		テーマ		内容						
23日間 180時間		社会福祉施設等		<p>1. オリエンテーション、施設内見学を通して学ぶ。</p> <p>①法的裏付け、設置主体、沿革、運営理念、地域との関わり 当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・団体等であることを理解した上で、具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発について学ぶ。</p> <p>②建物の構造、設置、特徴</p> <p>③職員の構成と役割 職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定を理解し、組織の一員としての役割と責任を持つ。</p> <p>④利用者の状況(定員、性別、年齢、障害、ADLの状態)把握</p> <p>⑤事業計画、処遇方針及び計画 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際</p> <p>2. 施設の一日の流れを理解する。(日課)</p> <p>①利用者の動き</p> <p>②各職員業務内容・役割分担 実習指導者の指導を受けながら、業務の進め方や記録の方法等について学び、実習機関・施設等においてチームの一員として活動する能力を養う。・アウトリーチ・ネットワークキング・コーディネーション・ネゴシエーション・ファシリテーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション</p> <p>3. 相談援助業務</p> <p>①共感的理解と基本的態度による援助過程について理解を深める。 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方など円滑な人間関係を形成する能力を強める。 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係を形成し、関係者への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価を行う。 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成を行う。</p> <p>②利用者やその家族と援助者との関係・援助者間の連絡、連携の実際を学び、求められる資質を考える。多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際を学ぶ。</p> <p>③その他の日常生活に関わる相談援助技術については施設の状況に応じて体験する。利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価を行う。</p> <p>④利用者やその家族と援助者との関係・援助者間の連絡、連携の実際を学び、求められる資質は何か考える。多職種連携及びチームアプローチの実践的理解を目指す。</p> <p>⑤その他の日常生活に関わる相談援助技術については施設の状況に応じて体験する。</p> <p>⑥介護業務 ・実際の介護業務を体験し、利用者とのコミュニケーションを深める。 ・利用者の機能や意識レベルに応じた介護技術の実際を習得する。 ・介護業務を通じて利用者のADLや心理の理解を深め、援助計画との関連性に気づく。 ・レクリエーション体験を通しその技術を学び、QOL向上への効果について体感する。</p> <p>4. 実習巡回指導 相談援助実習指導担当教員は巡回指導等を通して、実習指導者との連絡調整を密に行い、実習中の個別指導を十分に行う。</p>						

科目名	社会福祉現場実習	担当教員	野口美雪 服部典子 宇田川佳浩 武山和弘			評価の方法	実習指導者	50%
対象学科	社会福祉学科	開講時期	通年	単位数	8単位		実習担当教員	50%
必修・選択	必修			授業時間数	240時間			
配当年次	2年	授業形態	実習	授業回数	30日間			
テキスト・参考文献	実習要綱（仙台医療福祉専門学校） 『事例で深めるソーシャルワーク実習』（中央法規）							
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習機関の特性、関係法、役割、業務内容を理解する。 2 社会福祉サービスの需要とニーズの把握、提供の実際について実際から学ぶ。 3 制度やサービスがどのように提供されているのかを、見学、講義、ロールプレイによって学び、相談援助スキルに反映させることができる。 4 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動を身に着ける。 5 関連機関との連携の方法とその具体的効果を掴むことができる。 							
到達目標	福祉事務所（保健福祉センター）、社会福祉協議会の業務の範囲を総合的に理解すると共に、所管地域の特性を踏まえた福祉サービスの提供、連携・協力の実際や各々の制度・サービスの役割と展開を把握できる。また実習全体を通して自己洞察が図られ、援助者としてのスキルアップや学習の不足領域の把握と克服に生かすことができる。職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚に基づいた行動ができる。							
授業コマ数	テーマ	内容						
8日間 60時間	福祉事務所	<ol style="list-style-type: none"> (1)福祉事務所の組織、機能について <ul style="list-style-type: none"> ・統計資料や事業概要等により福祉事務所のどの係に、どんな職種の職員が置かれ、どのような業務を行っているかを知る。 (2)福祉事務所の業務について <ul style="list-style-type: none"> ・査察指導員等から福祉六法の実施状況について説明を受け、福祉事務所の業務について幅広く理解する。 ・民生委員や社会福祉協議会など福祉六法以外の業務について理解する。 (3)守秘義務について <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事務所業務の多くがプライベートな問題に関わる仕事であり、守秘業務の厳守がいかに大切かを理解する。 (4)利用者の理解について <ul style="list-style-type: none"> ・福祉事務所に訪れる人は、どのような生活問題を抱えているのかを学ぶ。 ・住民がなぜ福祉事務所への来談に至ったのか、生活歴、学歴、職歴、病歴から利用者の性格、家族構成、親族関係をダイナミックに理解する。 (5)職員と利用者の関わり方について <ul style="list-style-type: none"> ・職員の配置状況および業務量等から、職員の労働条件を理解する。 ・職員の利用者に対する接し方について、窓口での対応や電話の話し方を通して観察する。 ・職員と利用者の面接場面に同席し、職員の面接態度を学ぶ。 (6) 社会資源の活用について <ul style="list-style-type: none"> ・制度のあらしやパンフレットを通して、福祉事務所にどのような施策があるかを学ぶ。 ・地域の福祉ニーズの実態把握および福祉施策の活用状況を学ぶ。 ・福祉事務所以外の社会資源がどのように活用されているかを学ぶ。 (7)関係機関との連携について <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や地域包括支援センター、老人福祉施設との連携を学ぶ。 ・保健所、病院、児童相談所等との連携の実際を学ぶ。 (8)経理、統計について <ul style="list-style-type: none"> ・最低生活費の計算や福祉利用者からの費用徴収の実際を学ぶ。 (9)地域における役割について <ul style="list-style-type: none"> ・地域における生活問題解決の拠り所としての機能を学ぶ。 ・民生委員とのつながりを通して地域での役割を知る。 ・子供会、老人クラブ等関係団体との関係を理解する 						